元総社蒼海遺跡群（11）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（11）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００７．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

調査区遠景（南東から）

調査区全景（真上から）

H－15号住居跡全景（西から）

元総社蒼海遺跡群（11）出土遺物

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、総社古墳群が築かれた総社・元総社地区には山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の律令中枢施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋藩は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋が結ばれ、文化交流が始まりました。このように本市は、まさに、歴史性豊かなまちです。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（8）～（12）は古代上野国の中枢地域の調査であります。推定上野国府域に隣接することから多くの注目を集めております。今回の調査では、「国府のマチ」を形成する集落のほか、千網谷戸遺跡に代表される漏斗型耳飾りを出土した縄文晩期後半の住居跡、大溝の北側から検出された大型掘立柱建物跡１棟、鳥羽遺跡の対岸から検出された緑釉陶器群、また、中世の館跡など豊富な資料が発見されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、炎天下や寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成19年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　根岸　雅

例　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（11）発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町字小見1710番　他
発掘調査期間	平成18年８月22日～平成18年12月７日
整理・報告書作成期間	平成18年12月８日～平成19年３月９日
発掘・整理担当者	髙橋　亨・神宮　聡（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は髙橋・神宮が行った。

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
青木昭二郎・伊藤修道・植木政俊・髙橋公代・多田啓子・角田節子・角田昌幸・長澤幸枝・中林美智子
奈良啓子・橋本ちづる・細野進太郎・堀込とよ江・弥都啓吾・山口淳子

6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。

3．遺跡の略称は、18A130－11である。

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　T…竪穴状遺構　　W…溝跡　　D…土坑
P…ピット・貯蔵穴（住居内P_5を貯蔵穴とした。）

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
遺構　　全体図…1：200　　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1：60　　竈断面図…1：30
遺物　　土器・鉄製品…1/3、1/4　　石器・石製品・土製品…2/3、1/3　　鉄製品…1/2　瓦…1/6

6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
◎ 非常に締まり・粘性あり、○ 締まり・粘性あり、△ 締まり・粘性ややあり、× 締まり・粘性なし

8．遺構平面図の ---------- は推定線を表す。

9．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構断面図　　構築面…
遺物実測図　　須恵器断面…　　灰釉陶器断面…　　灰釉陶器表面…

10．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。
As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　次

はじめに …… i

例言・凡例 …… ii

Ⅰ 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 …… 1

2 歴史的環境 …… 1

Ⅲ 調査方針と経過

1 調査方針 …… 7

2 調査経過 …… 7

Ⅳ 基本層序 …… 9

Ⅴ 遺構と遺物

1 竪穴住居跡 …… 10

2 竪穴状遺構 …… 16

3 溝跡 …… 17

4 土坑 …… 18

5 グリッド等出土遺物 …… 18

Ⅵ まとめ …… 26

図　版

口絵1　調査区遠景（南東から）
2　調査区全景（真上から）
3　H－15号住居跡全景（西から）
4　元総社蒼海遺跡群（11）出土遺物

PL.1　H－1～8号住居跡
2　H－8～11号住居跡
3　H－12～14号住居跡
4　H－15～19号住居跡
5　H－20～24号住居跡
6　H－25～31号住居跡
7　H－32～35号住居跡、T－1・2号竪穴状遺構
8　T－3号竪穴状遺構、W－1・2・4～6号溝跡
9　縄文土器、H－1号住居跡出土遺物
10　H－1・3・6～10号住居跡出土遺物
11　H－10～14号住居跡出土遺物
12　H－14～16・18～20号住居跡出土遺物
13　H－20・24号住居跡出土遺物
14　H－27～32号住居跡出土遺物
15　H－32·33·35号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－1号溝跡出土遺物
16　石器、石製品、土製品、鉄製品
17　瓦（1）
18　瓦（2）
19　瓦（3）
11　H－14・16号住居跡
12　H－15号住居跡
13　H－17・19号住居跡
14　H－9・10・32号住居跡
15　H－18・20号住居跡
16　H－21～23号住居跡
17　H－24・25号住居跡
18　H－26～28号住居跡
19　H－29・31号住居跡
20　H－30号住居跡
21　H－33～35号住居跡
22　T－1～3号竪穴状遺構、D－1～4号土坑
23　W－1号溝跡
24　W－2～4・6・7号溝跡
25　縄文、H－1号住居跡出土遺物
26　H－1・3・6～8号住居跡出土遺物
27　H－9・10号住居跡出土遺物
28　H－10～15号住居跡出土遺物
29　H－15・16・18～20号住居跡出土遺物
30　H－20号住居跡出土遺物
31　H－20・24・27号住居跡出土遺物
32　H－27～32号住居跡出土遺物
33　H－32·33·35号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－1号溝跡出土遺物
34　石器・石製品・土製品・鉄製品
35　瓦（1）
36　瓦（2）

挿　図

Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　基本層序
5　元総社蒼海遺跡群（11）全体図
6　H－1・2号住居跡
7　H－3～6号住居跡
8　H－7号住居跡
9　H－8・11号住居跡
10　H－12・13号住居跡

表

Tab.1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2　竪穴住居跡一覧表
3　溝跡計測表
4　土坑計測表
5　縄文時代出土土器観察表
6　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
7　石器・石製品・土製品観察表
8　鉄器・鉄製品観察表
9　瓦観察表

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、7年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成18年4月19日付けで、前橋市長　高木　政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅に対し、調査実施について協議を行い、調査団はこれを受諾した。平成18年7月26日、調査依頼者である前橋市長　高木　政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、8月22日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（11）」（遺跡コード：18A130-11）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（11）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3ｍ～5ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1㎞の所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

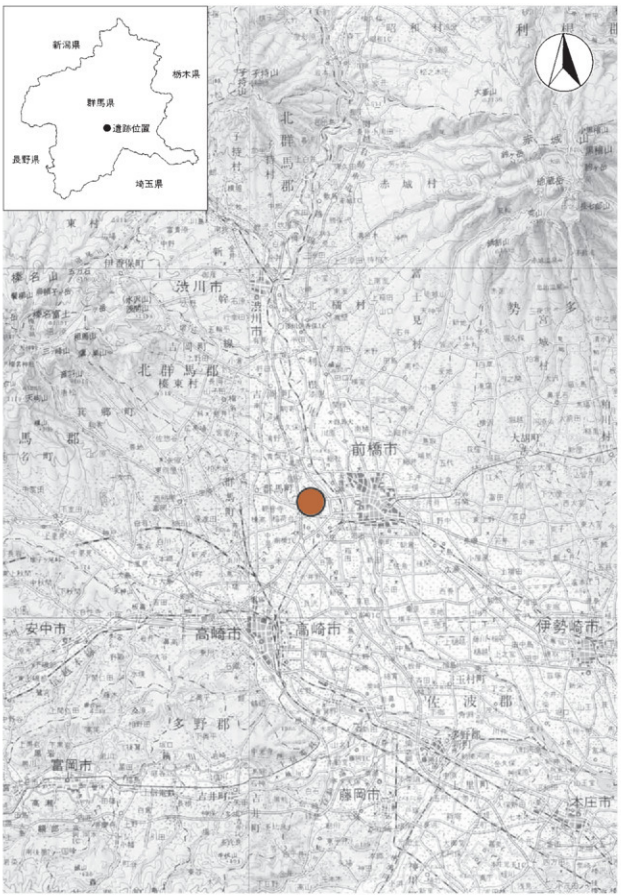


Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代に入ると、本遺跡の北東に市内でも有数の古墳地帯である総社古墳群が広がる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では、「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東礎石が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された関泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群（７）（９）(10)【（９）(10) は平成18年度調査実施】と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5km 南の地点にＮ－64°－Ｅ方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

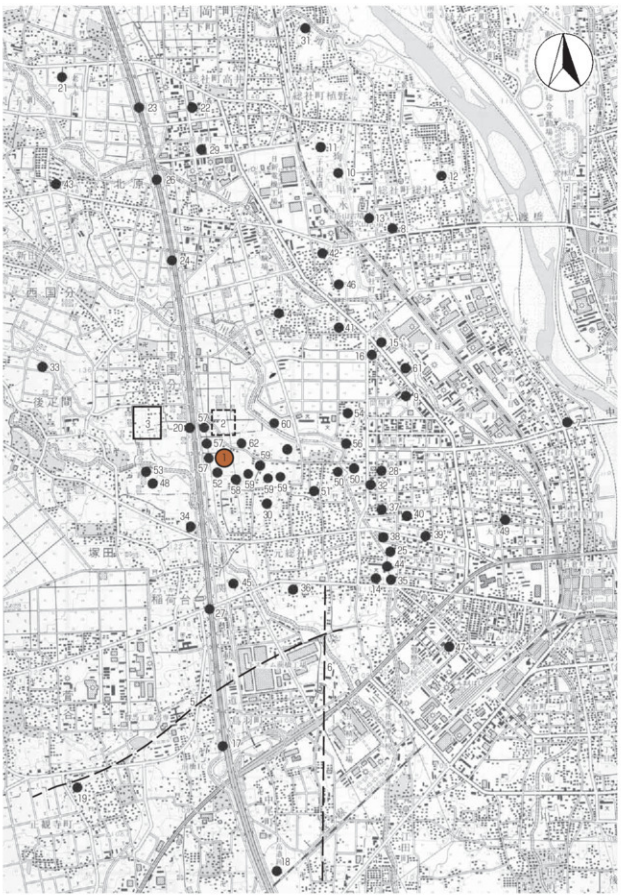


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	（1999）	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	（1974）	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8C初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7C初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6C末～7C初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7C末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	関泉横遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７m、下幅3.24m、深さ２m）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983,88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
32	関泉横南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989. 95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡Ⅰ～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・埴輪
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・結土採掘坑・金片・金片、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群（2）（6）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、井戸跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（1）（5）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓

※　調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。
※　調査名の欄の（事業団）は財群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い築造予定の前橋都市計画道路中央大橋通線（幅員30m）の西端部分の約1,130㎡である。本遺跡は調査地が現道により分断されるため、現道から西側部分をA区、東側部分をB区に区分することとした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X＝＋44,000・Y＝－72,200を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使用し、西から東へX47、48、49…、北から南へY114、115、116…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX54・Y120の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X＝＋43520.000	Y＝－71984.000	
緯　　度	36°23′22″.5209	経　　度	139°01′50″.9879
子午線収差角	28′34″.0	増 大 率	0.999964

調査方法については、表土掘削・遺構確認・杭打設・遺構掘下・遺構精査・全景写真・測量の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を行い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

8月22日、A区より重機（バックフォー0.45㎥）による表土掘削を開始した。調査地は田・畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要があったため耕作土を約20cm掘削し一ヵ所に集めた。その後、A区は、As－B軽石混土層を取り除き、As－C・Hr－FP軽石を含む暗褐色土面での遺構確認調査を行った。続いて8月25日よりB区の掘削を開始した。B区についてもA区と同様に耕作土の掘削を行った後、遺構面の土の掘削を行った。B区では、A区にある暗褐色土層が薄くなるためAs－C軽石を含む黒褐色土面での遺構確認を行った。8月28日には杭打測量を行い遺構の掘り下げ・精査を開始した。

調査区はA区（西）からB区（東）にむかって次第に低くなり、B区は遺構の密度も低くスムースに調査が進んだが、A区の西側部分は、遺構が高い密度で検出されたため、遺構の新旧関係の判断に苦心した。調査の結果、土師竪穴住居跡35軒、竪穴状遺構3軒、溝跡7条、土坑5基を検出した。

12月1日にラジコンヘリコプターによる調査区全景空中撮影を行い、12月7日に調査を終了し、その後調査区の埋戻しを行った。

12月8日より文化財保護課庁舎に戻り、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納・図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納を行い3月9日に全ての作業を終了した。

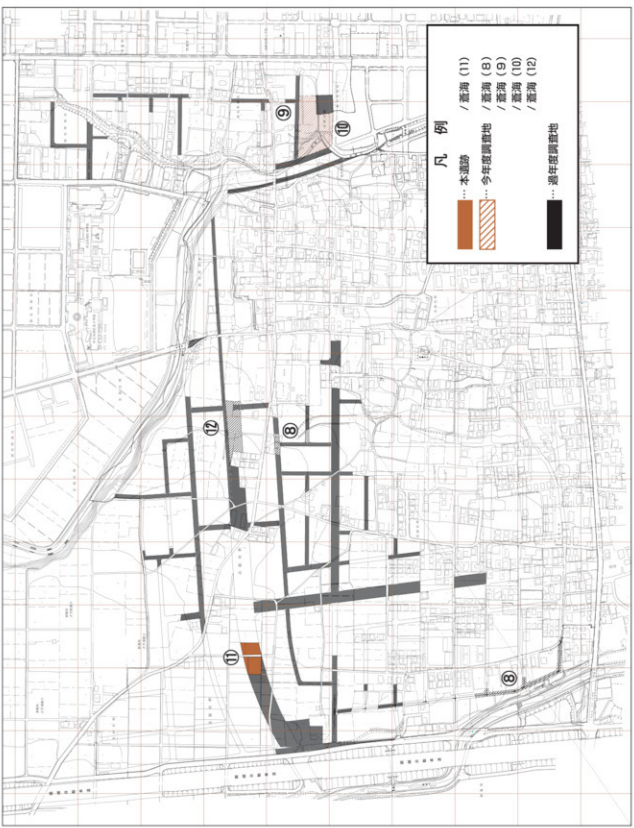
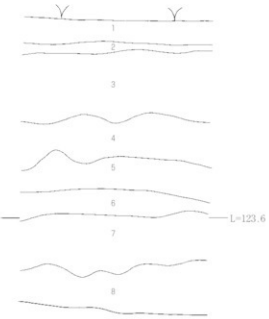
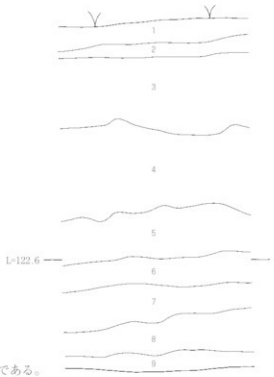


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅳ 基本層序



A地点



B地点

本遺跡地内のA地点、B地点の地層の堆積は、下記のとおりである。

1	黒褐色細砂層（10YR3/2）	現耕作土
2	褐色細砂層（7.5YR4/3）	現代の水田跡 締まり◎　粘性○
3	暗褐色細砂層（10YR3/3）	現代の水田跡 締まり○　粘性○
4	黒褐色粗砂層（10YR3/2）	締まり○　粘性△ As－B混土層
5	黒褐色細砂層（10YR2/3）	締まり○　粘性○ As－C・Hr－FP 20%
6	黒褐色細砂層（10YR2/2）	締まり○　粘性○ As－C 15%
7	黒褐色微砂層（10YR2/3）	締まり○　粘性◎ 赤色の軽石 1％（総社砂層）
8	褐色微砂層（7.5YR4/3）	締まり○　粘性◎ 赤色の軽石 2％（総社砂層）
9	橙色微砂層（7.5YR6/6）	締まり◎　粘性△ （総社砂層）

Fig.4　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.６・25・26、PL.１・９・10）

位置　X47・48、Y121・122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－55°－Ｅ　**面積**　(15.75)㎡　**形状等**　方形と推測される。東西（4.66）m、南北（5.04）m、壁現高57.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－65°－Ｅであり、全長132cm、最大幅86cm、焚口部幅24cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－２・７と重複しており、新旧関係はＨ－２→本遺構→Ｈ－７の順である。　**出土遺物**　縄文土器73点、土師器523点、須恵器40点、灰釉陶器１点、石錘５点、鉄製１点、瓦１点。そのうち土師坏３点・鉢１点・甕２点・甑１点、須恵壺１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。　**備考**　南西部が調査区外のため全容は不明であるが、17年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（４）Ｈ－22号住居跡と同一住居と考えられる。床面に焼土、炭化材が所々検出された。

Ｈ－２号住居跡（Fig.６、PL.１）

位置　X48、Y121・122グリッド　**竈**　煙道部のみ検出され、主軸方向Ｎ－69°－Ｅである。　**重複**　Ｈ－１と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－１の順である。　**備考**　本遺構は、当初、Ｈ－１の構築当初に使用していた竈と思われたが、焚口部と想定される部分から焼土・灰等が検出されず、煙道下部もＨ－１の壁（地山）となるため、Ｈ－１を構築する際に削られたものと考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.７・26、PL.１・10）

位置　X51・52、Y122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**面積**　(6.51)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西3.14m、南北（2.38）m、壁現高は32.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－４・５と重複しており、新旧関係はＨ－５→Ｈ－４→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器15点、土師器147点、須恵器83点、瓦12点、石錘６点。そのうち須恵坏１点・高台鉢１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.７、PL.１）

位置　X50・51、Y122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－93°－Ｅ　**面積**　(5.88)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西4.76m、南北（1.42）m、壁現高は21.5cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－３・５と重複しており、新旧関係は、Ｈ－５→本遺構→Ｈ－３の順である。　**出土遺物**　縄文土器４点、土師器53点、須恵器８点、灰釉陶器１点、瓦２点。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.７、PL.１）

位置　X49～51、Y122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－84°－Ｅ　**面積**　(2.37)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西4.44m、南北（0.88）m、壁現高は33.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－３・４と重複しており、新旧関係は、本遺構→Ｈ－５→Ｈ－３の順である。　**出土遺物**　土師器34点、須恵器７点、灰釉陶器１点。　**時期**　埋土や出土遺物から６世紀後半と考えられる。　**備考**　南西部が調査区外のため全容は不明であるが、17年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（４）Ｈ－16号住居跡と同一住居と考えられる。

H－6号住居跡（Fig. 7・26、PL. 1・10）

位置　X47、Y120・121グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**面積**　[2.79]㎡　**形状等**　方形と推定される。東西[1.62]m、南北3.16m、壁現高は37.0cmを測る。　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－7と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－7の順である。　**出土遺物**　縄文土器2点、土師器36点、須恵器2点、石類1点。そのうち土師坏3点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。　**備考**　西部が調査区外のため全容は不明であるが、17年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（4）H－6号住居跡と同一住居と考えられる。

H－7号住居跡（Fig. 8・26・34、PL. 1・10・16）

位置　X47～49、Y120・121グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**面積**　20.40㎡　**形状等**　長方形。東西4.04m、南北5.34m、壁現高は44cmを測る。　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向N－78°－Eであり、全長230cm、最大幅152cm、焚口部幅56cmを測る。構築材として、粘土、両袖に川原石、燃焼部壁に凝灰岩を使用している。　**重複**　H－1・6・30と重複しており、新旧関係は、H－1・30→H－6→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器49点、土師器502点、須恵器36点、灰釉陶器2点、瓦2点。そのうち土師坏1点、須恵蓋1点、壺1点、刀子1点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物、重複関係から8世紀中葉と考えられる。

H－8号住居跡（Fig. 9・26・35、PL. 1・2・10・17）

位置　X48・49、Y119～121グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**面積**　16.45㎡　**形状等**　長方形。東西3.92m、南北4.66m、壁現高は27.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向N－90°－Eであり、全長92cm、最大幅74cm、焚口部幅46cmを測る。構築材として、粘土、両袖に川原石、燃焼部壁、天井に川原石、凝灰岩、瓦を使用している。　**重複**　H－30と重複しており、新旧関係は、H－30→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器21点、土師器293点、須恵器71点、灰釉陶器7点、石類1点、瓦26点。そのうち灰釉高台埦1点、須恵羽釜1点、瓦1点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.14・27、PL. 2・10）

位置　X47・48、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　面積　[9.23]㎡　**形状等**　方形と推定される。東西（2.6）m、南北[3.92]m、壁現高は36.5cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向N－96°－Eであり、全長74cm、最大幅40cm、焚口部幅26cmを測る。構築材として、粘土を使用している。右壁部は、H－32により削られている。　**重複**　H－10・17・19・30・32と重複しており、新旧関係は、H－17→H－30→H－19→本遺構→H－32→H－10の順である。　**出土遺物**　縄文土器3点、土師器319点、須恵器59点、灰釉陶器2点、石類2点、瓦4点。そのうち土師坏1点・甕1点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.14・27・28・34、PL.2・10・11・16）

位置　X47・48、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－106°－E　**面積**　（10.66）㎡　**形状等**　長方形と推定される。東西3.70m、南北（3.78）m、壁現高は21.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向N－105°－Eであり、全長68cm、最大幅112cm、焚口部幅42cmを測る。構築材として、粘土、川原石を使用している。　**重複**　H－9・19・30・32・35、W－1と重複しており、新旧関係は、H－35→H－30→H－19→H－9→H－32→本遺構→W－1の順である。　**出土遺物**　縄文土器3点、土師器373点、須恵器

126点、灰釉陶器16点、石類2点、瓦20点。そのうち須恵坏７点・高台埦５点・羽釜１点、灰釉高台埦１点、砥石１点、釘１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.９・28・35、PL.２・11・17）

位置　X49・50、Y118・119グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**面積**　10.30㎡　**形状等**　長方形。東西2.96m、南北3.90m、壁現高は29.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦な床面であるが、北西部にやや窪みがある。**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－103°－Ｅであり、全長88cm、最大幅70cm、焚口部幅22cmを測る。構築材として、粘土、燃焼部壁・天井に瓦を使用している。　**出土遺物**　縄文土器７点、土師器257点、須恵器57点、灰釉陶器１点、石類３点、瓦25点。そのうち須恵坏１点・高台埦３点・羽釜１点、瓦１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－12号住居跡（Fig.10・28・34、PL.３・11・16）

位置　X50～52、Y120・121グリッド　**主軸方向**　Ｎ－54°－Ｅ　**面積**　15.07㎡　**形状等**　長方形。東西3.18m、南北5.16m、壁現高は47.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央やや北より検出され、主軸方向Ｎ－54°－Ｅであり、全長156cm、最大幅100cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－13・15と重複しており、新旧関係は、Ｈ－15→本遺構→Ｈ－13の順である。　**出土遺物**　縄文土器16点、土師器77点、須恵器２点、石類７点。そのうち土師坏１点、軽石製品１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

Ｈ－13号住居跡（Fig.10・28、PL.３・11）

位置　X50・51、Y119・120グリッド　**主軸方向**　Ｎ－106°－Ｅ　**面積**　12.15㎡　**形状等**　長方形。東西3.24m、南北4.20m、壁現高は24.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で部分的に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－110°－Ｅであり、全長94cm、最大幅124cm、焚口部幅26cmを測る。構築材として、粘土、燃焼部壁に瓦、支脚に方柱状の凝灰岩を使用している。　**重複**　Ｈ－12・14・15と重複しており、新旧関係は、Ｈ－15→Ｈ－12→Ｈ－14→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器６点、土師器237点、須恵器39点、灰釉陶器２点、瓦12点。そのうち須恵坏１点・高台埦１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物、重複関係から10世紀中葉と考えられる。

Ｈ－14号住居跡（Fig.11・28・35、PL.３・11・12・17）

位置　X51、Y119･120グリッド　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**面積**　7.13㎡　**形状等**　長方形。東西2.52m、南北3.12m、壁現高は35.0cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で部分的に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－92°－Ｅであり、全長96cm、最大幅70cm、焚口部幅46cmを測る。構築材として、袖を粘土と凝灰岩、燃焼部壁に瓦、支脚に方柱状の凝灰岩を使用している。　**重複**　Ｈ－13・15と重複しており、新旧関係は、Ｈ－15→本遺構→Ｈ－13の順である。　**出土遺物**　縄文土器４点、土師器216点、須恵器30点、灰釉陶器14点、瓦18点。そのうち須恵甕１点、灰釉陶器高台埦１点、瓦３点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。　**備考**　貯蔵穴より国分僧寺で使用していたと考えられる軒丸瓦が出土。

Ｈ－15号住居跡（Fig.12・28・29・34、PL.４・12・16）

位置　X51・52、Y119・120グリッド　**主軸方向**　Ｎ－73°－Ｅ　面積　28.85㎡　**形状等**　正方形。東西5.74m、南北5.42m、壁現高は52.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央やや北より

検出され、主軸方向N－68°－Eであり、全長156cm、最大幅130cm、焚口部幅26cmを測る。構築材として、粘土、両袖部に長胴甕を使用している。　**重複**　H－13・14・16と重複しており、新旧関係は、本道構→H－16→H－14→H－13の順である。　**出土遺物**　縄文土器17点、土師器539点、須恵器24点、石類5点、瓦1点。そのうち土師坏2点・壺1点・甕2点、石鏃1点、臼玉2点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H－16号住居跡（Fig.11・29・35、PL.4・12・17）

位置　X52・53、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　面積　(6.45)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西3.52m、南北（1.98）m、壁現高は16.0cmを測る。　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向N－90°－Eであり、全長76cm、最大幅（80）cm、焚口部幅32cmを測る。構築材として、粘土、瓦を使用している。　**重複**　H－15・29、W－1と重複しており、新旧関係は、H－29→H－15→本道構→W－1の順である。　**出土遺物**　縄文土器9点、土師器117点、須恵器31点、灰釉陶器4点、石類1点、瓦9点。そのうち須恵坏1点、瓦1点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H－17号住居跡（Fig.13、PL.4）

位置　X47、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－45°－E　**面積**　(2.27)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西（2.32）m、南北（2.02）m、壁現高は32.5cmを測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　北壁より検出され、主軸方向N－43°－Eであり、全長（104）cm、最大幅（70）cm、焚口部幅（20）cmを測る。構築材として、粘土、凝灰岩を使用している。　**重複**　H－9・19・32と重複しており、新旧関係は、本道構→H－19→H－9→H－32の順である。　**出土遺物**　土師器13点、石類1点。　**時期**　重複関係や出土遺物からHr－FP降下以降から7世紀代と考えられる。　**備考**　南西部が調査区外のため全容は不明であるが、17年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（4）H－22号住居跡と同一住居と考えられる。

H－18号住居跡（Fig.15・29・34、PL.4・12・16）

位置　X53・54、Y121・122グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**面積**　10.89㎡　**形状等**　方形。東西3.60m、南北3.42m、壁現高は27.0cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向N－108°－Eであり、全長96cm、最大幅106cm、焚口部幅32cmを測る。構築材として、粘土、川原石を使用している。　**重複**　H－31と重複しており、新旧関係は、H－31→本道構の順である。　**出土遺物**　縄文土器21点、土師器179点、須恵器37点、瓦7点、鉄類1点、石類6点。そのうち須恵坏1点・高台埦1点、石鏃1点、勾玉1点、砥石1点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－19号住居跡（Fig.13・29、PL.4・12）

位置　X47・48、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**面積**　(8.52)㎡　形状等　方形と推定される。東西（2.50）m、南北（4.10）m、壁現高は9.5cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央やや南よりH－9により壊された竈が検出された。　**重複**　H－9・10・17・32・35と重複しており、新旧関係は、H－17・35→本道構→H－9→H－32→H－10の順である。　**出土遺物**　縄文土器2点、土師器27点、須恵器3点。そのうち土師坏1点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物、重複関係から7世紀代から8世紀中葉と考えられる。

H－20号住居跡（Fig.15・29・30・31・34・35・36、PL.5・12・13・16・17・18）

位置　X57・58、Y121・122グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**面積**　(13.57)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西（3.74）m、南北4.20m、壁現高は31.0cmを測る。　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　東壁は調査区外である

ため全容は不明であるが、袖部、焚口部の検出状況により中央やや南に存すると推定される。 **出土遺物** 縄文土器５点、土師器129点、須恵器144点、灰釉陶器４点、瓦70点。そのうち須恵坏４点・高台埦10点・甕１点、羽釜２点、灰釉高台埦１点、鉄製紡錘車１点、瓦４点を図示。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Fig.16、PL.５）

位置 X55・56、Y119グリッド **主軸方向** Ｎ－93°－Ｅ **面積** (5.98) ㎡ **形状等** 方形と推定される。東西(4.08) m、南北（1.64）m、壁現高は24.0cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁南隅に近い位置より検出され、主軸方向Ｎ－100°－Ｅであり、全長134cm、最大幅62cm、焚口部幅22cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **重複** Ｗ－１と重複しており、新旧関係は、本遺構→Ｗ－１の順である。 **出土遺物** 縄文土器11点、土師器14点、須恵器３点、灰釉陶器１点、瓦１点、石類３点。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－22号住居跡（Fig.16・25、PL.５・９）

位置 X55・56、Y117グリッド **主軸方向** Ｎ－83°－Ｅ **面積** (6.84) ㎡ **形状等** 方形と推定される。東西(2.92) m、南北2.58m、壁現高は32.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－97°－Ｅであり、全長100cm、最大幅82cm、焚口部幅22cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **出土遺物** 縄文土器22点、土師器25点、須恵器11点、石類１点。そのうち縄文深鉢１点を図示。 **時期** 埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｈ－23号住居跡（Fig.16、PL.５）

位置 X55・56、Y115・116グリッド **主軸方向** Ｎ－76°－Ｅ **面積** (6.29) ㎡ **形状等** 方形と推定される。東西（2.90）m、南北（2.50）m、壁現高は9.0cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁より検出され、主軸方向Ｎ－95°－Ｅであり、全長102cm、最大幅70cm、焚口部幅20cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **出土遺物** 縄文土器３点、土師器34点、須恵器25点、瓦１点。 **時期** 埋土や出土遺物から上限は９世紀以降、下限は10世紀代と考えられる。

Ｈ－24号住居跡（Fig.17・31、PL.５・13）

位置 X50・51、Y121・122グリッド **主軸方向** Ｎ－95°－Ｅ **面積** 8.07㎡ **形状等** 長方形。東西2.68m、南北3.24m、壁現高は32.0cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－92°－Ｅであり、全長74cm、最大幅100cm、焚口部幅50cmを測る。構築材として、粘土、瓦を使用している。 **出土遺物** 縄文土器７点、土師器243点、須恵器60点、瓦17点、石類４点。そのうち須恵高台埦２点、瓶１点を図示。 **時期** 埋土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－25号住居跡（Fig.17、PL.６）

位置 X55、Y119・120グリッド **主軸方向** Ｎ－90°－Ｅ **面積** (1.92) ㎡ **形状等** 方形と推定される。東西(0.78) m、南北（3.10）m、壁現高は9.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－97°－Ｅであり、全長98cm、最大幅106cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、瓦を使用している。 **出土遺物** 土師器２点、須恵器３点、瓦１点。 **時期** 埋土や出土遺物から８世紀からAs－B降下以前と考えられる。

H－26号住居跡（Fig.18、PL.6）

位置 X55・56、Y118グリッド **主軸方向** N－100°－E **面積** (4.82)㎡ 形状等 方形と推定される。東西(3.40)m、南北(1.64)m、壁現高は34.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **重複** W－1と重複しており、新旧関係は、本遺構→W－1の順である。 **出土遺物** 縄文土器17点、土師器11点、須恵器12点、灰釉陶器1点、瓦1点。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀から10世紀代と考えられる。

H－27号住居跡（Fig.18・31・32、PL.6・14）

位置 X53・54、Y118・119グリッド **主軸方向** N－100°－E **面積** (9.88)㎡ 形状等 方形と推定される。東西(3.68)m、南北(3.30)m、壁現高は25.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 調査区内では検出されなかったが、調査区東壁中央やや南より灰、焼土、竈構築材と考えられる粘土、凝灰岩が検出される。 **出土遺物** 縄文土器10点、土師器91点、須恵器36点、瓦4点。そのうち須恵坏4点を図示。 時期埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－28号住居跡（Fig.18・32、PL.6・14）

位置 X56・57、Y122グリッド 主軸方向 N－85°－E 面積 (2.75)㎡ 形状等 方形と推定される。東西(2.80)m、南北(1.32)m、壁現高は27.0cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **出土遺物** 縄文土器3点、土師器20点、須恵器4点。そのうち須恵高台埦2点を図示。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－29号住居跡（Fig.19・32・34、PL.6・14・16）

位置 X51・52、Y118・119グリッド **主軸方向** N－120°－W **面積** (3.93)㎡ **形状等** 方形と推定される。東西(2.72)m、南北(2.54)m、壁現高61.0cmを測る。 **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 南西隅より検出され、主軸方向N－142°－Wであり、全長40cm、最大幅40cmを測る。 **重複** H－16、W－1と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－16→W－1の順である。 **出土遺物** 土師器25点、須恵器1点、鉄類1点。そのうち土師坏2点、釘1点を図示 時期 埋土や出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

H－30号住居跡（Fig.20・32・34、PL.6・14・16）

位置 X47～49、Y119・120グリッド **主軸方向** N－53°－E **面積** [23.14]㎡ 形状等 方形と推定される。東西[5.24]m、南北[4.86]m、壁現高は44.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦で堅緻な床面。周溝有。 **竈** 東壁中央やや南より検出されたが、T－1により右袖・焚口・煙道部の大部分が削られている。構築材として、袖部は粘土を使用している。 **重複** H－7・8・9・10・19・32、T－1と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－19・T－1→H－7・9→H－32→H－8・10の順である。 **出土遺物** 縄文土器36点、土師器350点、須恵器16点、灰釉陶器1点、石類1点。そのうち土師坏5点・甕1点、須恵蓋1点、垂飾1点を図示。 **時期** 埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H－31号住居跡（Fig.19・32・36、PL.6・14・18・19）

位置 X53・54、Y121・122グリッド **主軸方向** N－92°－E 面積 (9.26)㎡ **形状等** 方形と推定される。東西(2.88)m、南北4.04m、壁現高は25.0cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 調査区東壁中央やや南の床面より灰、竈構築材と考えられる粘土、凝灰岩、瓦が検出された。 **重複** H－18と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－18の順である。 **出土遺物** 縄文土器15点、土師器187点、須恵器42点、灰釉陶器1点、

石類４点、瓦19点。そのうち須恵坏１点・高台埦１点、瓦３点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－32号住居跡（Fig.14・32・33、PL.７・14・15）

位置　X47・48、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－103°－E　**面積**　[8.84]㎡　**形状等**　方形と推定される。東西［3.20］m、南北［2.50］m、壁現高は12.0㎝を測る。　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南よりH－10により壊された竈が検出された。　**重複**　H－９・10・17・19・30・35と重複しており、新旧関係は、H－17・30・35→H－19→H－９→本遺構→H－10の順である。　**出土遺物**　土師器141点、須恵器33点、石類１点そのうち土師甕１点､須恵坏２点･高台皿１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－33号住居跡（Fig.21・33、PL.７・15）

位置　X48・49、Y117グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**面積**　(2.95)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西(2.30) m、南北（1.50）m、壁現高は14.0㎝を測る。　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向N－77°－Eであり、全長84㎝、最大幅66㎝、焚口部幅22㎝を測る。構築材として、粘土、袖部に川原石を使用している。　**重複**　H－34と重複しており、新旧関係は、H－34→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器272点、須恵器12点。そのうち土師甕２点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

H－34号住居跡（Fig.21、PL.７）

位置　X49､Y117グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**面積**　(2.19)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西（3.10) m、南北（1.04）m、壁現高は31.0㎝を測る。　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－33と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－33の順である。　**出土遺物**　土師器80点、須恵器８点。　**時期**　埋土や出土遺物、重複関係からHr－FP降下以降から７世紀後半と考えられる。

H－35号住居跡（Fig.21・33、PL.７・15）

位置　X48・49、Y118グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**面積**　(4.27)㎡　**形状等**　方形と推定される。東西(4.42) m、南北（1.54）m、壁現高は47.0㎝を測る。　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－10・32、W－１と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－32→H－10→W－１の順である。　**出土遺物**　縄文土器４点、土師器28点、須恵器９点、灰釉陶器１点、瓦１点。そのうち土師甕１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から６世紀中葉から後半頃と考えられる。

２　竪穴状遺構

T－１号竪穴状遺構（Fig.22・33・34、PL.７・15・16）

位置　X48･49､Y119グリッド　**主軸方向**　N－155°－E　**面積**　2.36㎡　**形状等**　方形。東西［1.5］m､南北1.86 m、壁現高は33.5㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**重複**　H－30と重複しており、新旧関係はH－30→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器12点、土師器39点、須恵器２点、石類１点。そのうち土師坏１点、石錘１点を図示。　**時期**　埋土や出土遺物から７世紀代と考えられるがH－30とそれほど時期差はないと思われる。

T－２号竪穴状遺構（Fig.22、PL.７）

位置　X55・56、Y121・122グリッド　**主軸方向**　N－145°－E　**面積**　6.99㎡　**形状等**　長方形。東西2.50m、

南北3.20m、壁現高は6.0cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**出土遺物**　縄文土器２点、土師器13点、須恵器４点。　**時期**　埋土からHr－FP降下以降、As－B降下以前と考えられる。

Ｔ－３号竪穴状遺構（Fig.22、PL.８）

位置　X52･53、Y117グリッド　**主軸方向**　N－60°－E　**面積**　(2.39) ㎡　**形状等**　方形と推定される。東西2.2m、南北（1.7）m、壁現高は19.0cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**出土遺物**　土師器16点、須恵器１点。　**時期**　埋土からHr－FP降下以降、As－B降下以前と考えられる。

３　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.23・33・34、PL.８・15・16）

位置　X47～58、Y115～119グリッド　**主軸方向**　N－96°－E（A区）　N－3°－E（B区）　**形状等**　V字形。長さ52.5m、最大深179cm、最大上幅290cm、最大下幅74cmを測る。　**重複**　H－16・21・36・27・29・35、Ｗ－２・５と重複しており、新旧関係は本遺構が一番新しい。　**出土遺物**　縄文土器30点･土師器318点･須恵器155点･灰釉陶器８点・石製20点・瓦76点。そのうち須恵高台塊１点・蓋１点、臼玉１点、砥石１点を図示した。　**時期**　埋土からAs－B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。断面形はV字形であるが薬研掘りに近い。

Ｗ－２号溝跡（Fig.24、PL.８）

位置　X50、Y118～122グリッド　**主軸方向**　N－8°－E　**形状等**　U字形。長さ13.50m、最大深29cm、最大上幅44cm、最大下幅24cmを測る。　**重複**　Ｗ－１と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－１の順である。　**出土遺物**　縄文土器３点・土師器26点・須恵器６点。　**時期**　埋土からAs－B降下以降と考えられる。

Ｗ－３号溝跡（Fig.24）

位置　X49、Y121・122グリッド　**主軸方向**　N－5°－E　**形状等**　U字形。長さ4.0m、最大深14cm、最大上幅46cm、最大下幅18cmを測る。　**出土遺物**　なし。　**時期**　埋土からAs－B降下以降と考えられる。

Ｗ－４号溝跡（Fig.24、PL.８）

位置　X52、Y121・122グリッド　**主軸方向**　N－5°－E　**形状等**　U字形。長さ4.1m、最大深32cm、最大上幅68cm、最大下幅40cmを測る。　**出土遺物**　縄文土器13点・土師器49点・須恵器１点。　**時期**　埋土からHr－FP降下以降からAs－B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。17年度に調査を行った元総社蒼海遺跡群（４）Ｗ－５号溝跡と同一と考えられる。

Ｗ－５号溝跡（Fig.23、PL.８）

位置　X55～58、Y116～118グリッド　**主軸方向**　N－140°－E　**形状等**　U字形。長さ25m、最大深47cm、最大上幅94cm、最大下幅70cmを測る。　**重複**　Ｗ－１と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－１の順である。　**出土遺物**　縄文土器６点・土師器10点・須恵器７点。　**時期**　埋土や重複関係からHr－FP降下以降、As－B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－6号溝跡（Fig.24、PL.8）

位置　X55、Y122グリッド　**主軸方向**　N－10°－E　**形状等**　U字形。長さ2.5m、最大深44cm、最大上幅80cm、最大下幅56cmを測る。　**時期**　埋土からAs－B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－7号溝跡（Fig.24）

位置　X53、Y120～122グリッド　**主軸方向**　N－5°－E　**形状等**　逆台形。長さ5.2m、最大深33cm、最大上幅96cm、最大下幅76cmを測る。　**時期**　埋土からAs－B降下以降と考えられる。　**出土遺物**　縄文土器5点・土師器54点・須恵器31点・瓦10点・石類2点。　**備考**　流水の痕跡無し。

4　土坑（Fig.22）

土坑については、Tab.4　土坑計測表（P.20）を参照のこと。

5　グリッド等出土遺物（Fig.25・34・36、PL.8）

遺物は、縄文土器310点・土師器2048点・須恵器450点・灰釉陶器19点・石類21点・鉄類3点・瓦92点が出土した。そのうち縄文土器17点、垂飾1点、臼玉1点、土錘1点、瓦1点を図示した。

Tab. 2　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位置	規模			面積(㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西(m)	南北(m)	壁現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X47・48 Y121・122	(4.66)	(5.04)	57.5	(15.75)	N－55°－E	東壁やや南	粘土	○	坏・鉢・甕・甑	_	_
H－2	X48 Y121・122	_	_	_	_	_	(東壁)	_	_	_	_	_
H－3	X51・52 Y122	3.14	(2.38)	32.5	(6.51)	N－95°－E	東壁	粘土・川原石	_	_	坏・鉢・羽釜	瓦
H－4	X50・51 Y122	4.76	(1.42)	21.5	(5.88)	N－93°－E	_	_	_	_	高台埦・甕	瓦
H－5	X49～51 Y122	4.44	(0.88)	33.5	(2.37)	N－84°－E	_	_	_	坏	_	_
H－6	X47 Y120・121	[1.62]	3.16	37.0	[2.79]	N－70°－E	_	_	_	坏	_	_
H－7	X47～49 Y120・121	4.04	5.34	44.0	20.40	N－74°－E	東壁やや南	粘土・凝灰岩 川原石	_	坏	蓋・壺	刀子
H－8	X48・49 Y119～121	3.92	4.66	27.5	16.45	N－102°－E	東壁やや南	粘土・凝灰岩 瓦・川原石	_	_	坏・高台埦 羽釜	瓦
H－9	X47・48 Y118・119	(2.60)	[3.92]	36.5	[9.23]	N－92°－E	東壁やや南	粘土	_	坏・甕	_	_
H－10	X47・48 Y118・119	3.70	(3.78)	21.5	(10.66)	N－106°－E	東壁やや南	粘土・川原石	_	_	坏・高台埦 羽釜	砥石・釘
H－11	X49・50 Y118・119	2.96	3.90	29.5	10.30	N－92°－E	東壁やや南	粘土・瓦	_	_	坏・高台埦 羽釜	瓦
H－12	X50～52 Y120・121	3.18	5.16	47.5	15.07	N－54°－E	東壁やや北	粘土	○	坏	_	軽石製品
H－13	X50・51 Y119・120	3.24	4.20	24.5	12.15	N－106°－E	東壁やや南	粘土・凝灰岩・瓦	_	_	坏・高台埦	_
H－14	X51 Y119・120	2.52	3.12	35.0	7.13	N－95°－E	東壁やや南	粘土・凝灰岩・瓦	_	_	高台埦・甕	瓦
H－15	X51・52 Y119・120	5.74	5.42	52.5	28.85	N－73°－E	東壁やや北	粘土・甕	○	坏・壺・甕	－	臼玉
H－16	X52・53 Y118・119	3.52	(1.98)	16.0	(6.45)	N－88°－E	東壁	粘土・瓦	_	_	坏	瓦
H－17	X47 Y118・119	(2.32)	(2.02)	32.5	(2.27)	N－45°－E	(北壁)	粘土・凝灰岩	_	_	_	_
H－18	X53・54 Y121・122	3.60	3.42	27.0	10.89	N－88°－E	東壁やや南	粘土・川原石	_	_	坏・高台埦	砥石
H－19	X47・48 Y118・119	(2.50)	(4.10)	9.5	(8.52)	N－98°－E	(東壁やや南)	_	_	坏	_	_
H－20	X57・58 Y121・122	(3.74)	4.20	31.0	(13.57)	N－100°－E	(東壁やや南)	粘土・凝灰岩・瓦	_	_	坏・高台埦 甑・羽釜	紡錘車 瓦
H－21	X55・56 Y119	(4.08)	(1.64)	24.0	(5.98)	N－93°－E	(東壁やや南)	粘土	_	_	_	_
H－22	X55・56 Y117	(2.92)	2.58	32.5	(6.84)	N－83°－E	東壁やや南	粘土	_	_	_	_
H－23	X55・56 Y115・116	(2.90)	(2.50)	9.0	(6.29)	N－76°－E	(東壁)	粘土	_	_	_	_
H－24	X50・51 Y121・122	2.68	3.24	32.0	8.07	N－95°－E	東壁やや南	粘土・瓦	_	_	高台埦・瓶	_
H－25	X55 Y119・120	(0.78)	(3.10)	9.5	(1.92)	N－90°－E	東壁やや南	粘土・瓦	_	_	_	_
H－26	X55・56 Y118	(3.40)	(1.64)	34.5	(4.82)	N－100°－E	_	_	_	_	_	_
H－27	X53・54 Y118・119	(3.68)	(3.30)	25.5	(9.88)	N－100°－E	(東壁やや南)	(粘土・凝灰岩)	_	_	坏	_
H－28	X56・57 Y122	(2.80)	(1.32)	27.0	(2.75)	N－85°－E	_	_	_	_	高台埦	_
H－29	X51・52 Y118・119	(2.72)	(2.54)	61.0	(3.93)	N－120°－W	南西隅	_	_	坏	_	釘
H－30	X47～49 Y119・120	[5.24]	[4.86]	44.5	[23.14]	N－53°－E	東壁やや南	粘土	○	坏・甕	蓋	垂飾
H－31	X53・54 Y121・122	(2.88)	4.04	25.0	(9.26)	N－92°－E	(東壁)	粘土・凝灰岩・瓦	_	_	坏・高台埦	瓦
H－32	X47・48 Y118・119	[3.20]	[2.50]	12.0	[8.84]	N－103°－E	(東壁やや南)	粘土	_	甕	坏・皿	_

遺構名	位　置	規　模			面積 (㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西 (m)	南北 (m)	壁現高 (cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－33	X48・49 Y117	(2.30)	(1.50)	14.0	(2.95)	N－82°－E	(東壁)	粘土・川原石	－	坏・甕	－	－
H－34	X49 Y117	(3.10)	(1.04)	31.0	(2.19)	N－80°－E	－	－	－	－	－	－
H－35	X48・49 Y118	(4.42)	(1.54)	47.0	(4.27)	N－80°－E	－	－	○	甕	－	－
T－1	X48・49 Y119	[1.50]	1.86	33.5	[2.36]	N－155°－E	－	－	－	坏	－	－
T－2	X55・56 Y121・122	2.50	3.20	6.0	6.99	N－145°－E	－	－	－	－	－	－
T－3	X52・53 Y117	2.20	(1.70)	19.0	(2.39)	N－60°－E	－	－	－	－	－	－

Tab.3　溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時期	備考
			最大	最小	最大	最小	最大	最小				
W－1	X47～58 Y115～119	52.5	179	128	290	250	74	20	N－96°－E	V字形	As－B降下後	A区
			129	85	250	165	62	32	N－3°－E			B区
W－2	X50 Y118～122	13.5	29	12	44	30	24	10	N－8°－E	U字形	As－B降下後	
W－3	X49 Y121・122	4.0	14	7	46	38	18	10	N－5°－E	U字形	As－B降下後	
W－4	X52 Y121・122	4.1	32	22	68	58	40	20	N－5°－E	U字形	古代	
W－5	X55～58 Y116～118	25.0	47	20	94	60	70	42	N－140°－E	U字形	古代	
W－6	X55 Y122	2.5	44	28	80	68	56	50	N－10°－E	U字形	As－B降下後	
W－7	X53 Y120～122	5.2	33	7	96	74	76	52	N－5°－E	逆台形	As－B降下後	

Tab.4　土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	備考（出土遺物）
D－1	X52・53、Y121	158	116	25.5	楕円形	縄4、土3、石1
D－2	X54、Y121	124	58	15.0	楕円形	縄1・土1・須1
D－3	X48・49、Y119	96	90	17.0	円形	土11
D－4	X48・49、Y119	92	90	14.0	円形	土4

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器、石…石類（黒曜石を含む）

Tab. 5　縄文時代出土土器観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H－22 覆土	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④破片	口縁無文帯、その下に微隆起帯、平行沈線が懸垂。縄文RL施文。		加曽利 E3
2	X48Y122	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④破片	口縁部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位・斜位の集合沈線を施文。	6	諸磯 C
3	X49Y119	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④破片	半截竹管による横位・斜位の集合沈線を施文後、ボタン状粘土を２列貼付。ボタン状粘土には２箇所の刺突有。		諸磯 C
4	X50Y122	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④破片	半截竹管により横位の平行沈線施文後、斜位の浮線文施文。		諸磯 B
5	X51Y119	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④破片	２本の円弧状微隆起帯により区画文が施され、その区画内に０条３段の縄文LR施文。		加曽利 E4
6	X54Y115	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④破片	２本の沈線を懸垂し、沈線の区画内の縄文を磨消している。縄文RL施文。		加曽利 E3
7	X54Y117	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④破片	三角形状口唇部。半截竹管による斜位の集合沈線を三角形に施文。		諸磯 C
8	X54Y117	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④破片	口縁部無文。口縁下位に縄文LR施文。		加曽利 E3
9	X54Y117	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④破片	隆帯による渦巻文。縄文LR施文。		加曽利 E3
10	X54Y117	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④破片	平行沈線と蛇行沈線が懸垂。縄文RL施文。		加曽利 E3
11	X54Y117	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④破片	２本の沈線を懸垂し、沈線の区画内の縄文を磨消している。縄文RL施文。		加曽利 E3
12	A区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④破片	半截竹管により口縁部に４本横位の浮線文を施文し、その下に斜位の浮線文施文。		諸磯 B
13	A区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④破片	半截竹管により横位の平行沈線施文後、口縁部に横位その下に斜位の連続爪型文を施文。ボタン状粘土貼付。		諸磯 B
14	A区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④破片	半截竹管による横位の集合沈線を施文。		諸磯 C
15	A区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④破片	半截竹管による横位の集合沈線を施文後、耳たぶ状・ボタン状粘土を貼付。ボタン部には竹管による刺突有。		諸磯 C
16	A区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③明黄褐色 ④破片	U字状の微隆起帯に区画。区画内は０条３段のLR縄文施文。		加曽利 E4
17	A区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④破片	波状口縁の波頂部に橋状の把手を有するが欠損。口縁部に２条の連続する棒状工具による刺突文施文。０段３状のLR縄文。		加曽利 E4
18	B区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④破片	地文に縄文施文後、ヘラ状工具による山形沈線文施文。山形文下に刺突		諸磯 B

注　①層位は「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位からの検出とした。
②口径・器高・底径の単位は cm である。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm 以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（20mm 以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 6　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H－1 貯蔵穴	土師器 坏	① 13.0 ② 4.5 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④5/6	口縁・体部：直立からやや内傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。	23ほか	
2	H－1 床直	土師器 坏	①[13.6] ② 4.6 ③ －	①細粒 ②良好 ③褐灰色 ④3/4	口縁・体部：直立、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。	H－2－21	
3	H－1 床直	土師器 坏	①[13.2] ② 4.4 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④1/2	口縁・体部：直立からやや外傾気味口縁端部やや内反、内・外面横撫で。外面に煤付着。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。	H－2－9 ほか	
4	H－1 覆土	須恵器 小型壺	① 10.6 ② 6.9 ③ －	①細粒 ②良好 ③灰色 ④5/6	轆轤整形。口縁部:短く外傾、内･外面撫で。体部:内面撫で、外面上位撫で、下位回転箆削り。底部:平底気味、内面撫で、外面回転箆削り。	5ほか	
5	H－1 床直	土師器 小型鉢	① 15.3 ② 8.9 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④4/5	口縁部：短く外反、内・外面横撫で。体部：内面撫で、外面縦位の箆削り。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。	20ほか	
6	H－1 床直	土師器 小型甕	①[13.0] ② (9.9) ③ －	①細粒 ②良好 ③灰褐色 ④1/3	口縁部:やや内傾から口縁端部外反、内･外面横撫で。胴部：内面撫で一部箆削り、外面上位横位の箆削り、下位斜位の箆削り。底部：丸底と推定される。	H－2－18	
7	H－1 床直	土師器 甕	①[18.4] ②(12.8) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④胴～底部欠損	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。胴部：上位直立、内面撫で、縦位の箆削り。下位～底部欠損。	13ほか	
8	H－1 床直	土師器 甑	①[22.7] ② 27.8 ③[11.0]	①細粒 ②良好 ③橙色 ④3/5	口縁部:外傾、内･外面横撫で。胴部：直立気味、内面撫で、外面縦位の箆削り。底部：径10.0cmの平底。	19ほか	
9	H－3 竈	須恵器 坏	①[11.2] ② 3.1 ③ 4.4	①細粒 ②良好 ③橙色 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で。外面雑な回転糸切り。	10ほか	酸化焔焼成
10	H－3 床直	須恵器 高台鉢	①[26.8] ② (8.1) ③(12.0)	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内面撫で、外面上位撫で、下位箆削り。底部：内面撫で。外面回転箆削り後付け高台。	17	酸化焔焼成
11	H－6 床直	土師器 坏	①[11.6] ② 3.4 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④1/2	口縁・体部：直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	2ほか	
12	H－6 床直	土師器 坏	①[11.5] ② 3.7 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④3/5	口縁･体部:直立からやや内傾気味、内･外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	5ほか	
13	H－6 覆土	土師器 坏	①[17.6] ② 4.4 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④2/5	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	1	
14	H－7 覆土	土師器 坏	①[12.8] ② (4.0) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④破片	口縁･体部:外傾、内面撫で、外面箆削り。内面に放射状暗文。	9	
15	H－7 覆土	須恵器 蓋	① － ② － ③ －	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④破片	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜、内・外面撫で。摘み：環状摘み。	4	
16	H－7 覆土	須恵器 小型壺	①[10.8] ② (7.0) ③ －	①細粒 ②良好 ③オリーブ黒色 ④2/5	轆轤整形。口縁部：直立、内・外面横撫で。体部：内・外面撫で。底部欠損。自然釉。	6	
17	H－8 床直	灰釉 高台埦	①[13.4] ② 4.4 ③ [6.7]	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④1/3	轆轤整形。口縁･体部:外傾、内･外面撫で。底部:内面撫で、外面回転箆削り後撫で。摘み出し高台。漬け掛け施釉。	35	
18	H－8 竈	須恵器 羽釜	①[22.0] ②(16.3) ③ －	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④破片	轆轤整形。口縁部:直立気味から口縁端部外反､内･外面撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内・外面撫で。	33ほか	酸化焔焼成
19	H－9 覆土	土師器 坏	①[13.0] ② 3.3 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④2/5	口縁･体部:外傾から口縁端部外反、内･外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面箆削り。	3ほか	
20	H－9 床直	土師器 甕	① 22.9 ②(11.8) ③ －	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④口縁	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：上位やや膨らみ外面横位・斜位の箆削り。下位・底部欠損。	38ほか	
21	H－10 床直	須恵器 坏	① 11.7 ② 3.2 ③ 5.1	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	轆轤整形。口縁･体部:外傾、内外面撫で。底部:内面撫で。外面回転糸切り。	39ほか	酸化焔焼成
22	H－10 床直	須恵器 坏	①[10.5] ② 3.6 ③ 5.2	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内外面撫で、顕著な轆轤痕。底部：内面撫で。外面回転糸切り。	45	酸化焔焼成
23	H－10 床直	須恵器 坏	① 12.0 ② 4.1 ③ 5.4	①細粒 ②良好 ③灰黄色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁･体部:外傾から口縁端部外反、内外面撫で、顕著な轆轤痕。底部：内面撫で。外面回転糸切り。	42ほか	酸化焔焼成
24	H－10 床直	須恵器 坏	① 12.0 ② 3.7 ③ 5.6	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で。外面回転糸切り。	43ほか	酸化焔焼成
25	H－10 床直	須恵器 坏	① 12.2 ② 4.0 ③ 5.3	①細粒 ②良好 ③灰色 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	34ほか	酸化焔焼成
26	H－10 床直	須恵器 坏	① 11.8 ② 3.6 ③ 5.3	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	H－38－5	墨書土器 酸化焔焼成
27	H－10 床直	須恵器 坏	①[11.6] ② 3.4 ③ 〔5.0〕	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	H－37－5 ほか	酸化焔焼成
28	H－10 床直	須恵器 高台埦	①[14.0] ② 4.2 ③ 6.5	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	36	酸化焔焼成
29	H－10 柱穴	須恵器 高台埦	① 12.5 ② 4.7 ③ 6.7	①中粒 ②良好 ③褐灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形｡口縁･体部:外傾から口縁端部やや外反､内･外面撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り後付け高台、高台の作り粗雑。	58	酸化焔焼成
30	H－10 床直	須恵器 高台埦	① 11.4 ② 4.2 ③ 5.9	①細粒 ②良好 ③黒色 ④完形	轆轤整形。口縁･体部:外傾、内･外面撫で。底部:内面撫で、外面回転箆削り後付け高台。内・外面黒色処理。	40	いぶし焼成
31	H－10 埋土	須恵器 高台埦	① 15.8 ② 5.2 ③ 7.7	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④完形	轆轤整形。口縁･体部:外傾、内･外面撫で。内面黒色処理。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	6ほか	酸化焔焼成
32	H－10 床直	須恵器 高台埦	①[12.4] ② 4.7 ③ 〔5.6〕	①細粒 ②良好 ③明黄褐色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後箆調整後付け高台。高台の作り粗雑。	H－38－8 ほか	墨書土器 酸化焔焼成
33	H－10 床直	灰釉 高台埦	① 12.5 ② 4.3 ③ 6.1	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁･体部:外傾、内･外面撫で。底部:内面撫で、外面回転箆削り後付け高台。漬け掛け施釉。	35	

番号	遺構番号 層　位	器　種	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
34	H－10 竈	須恵器 羽釜	①[22.4]　②（8.8） ③　－	①細粒　②良好 ③橙色　④破片	輪縁整形。口縁部:内傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。鍔部:三角形状ではま水平。胴部:上位内面横位、外面一部施削り。胴部下位、底部欠損。	49	酸化焔焼成
35	H－11 竈	須恵器 坏	①　13.0　②　4.7 ③　5.5	①細粒　②良好 ③灰黄褐色　④3/4	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。	36	酸化焔焼成
36	H－11 床直	須恵器 高台坏	①[13.1]　②　5.1 ③　5.9	①細粒　②良好 ③黒色　④2/3	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁部端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。高台:外面回転処理。	28	酸化焔焼成
37	H－11 床直	須恵器 高台坏	①　13.6　②　5.2 ③　6.4	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙色　④2/3	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。高台。	12	酸化焔焼成
38	H－11 竈	須恵器 高台坏	①　13.3　②　4.9 ③　6.3	①細粒　②良好 ③暗赤褐色　④4/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。高台。	37	酸化焔焼成
39	H－11 床直	須恵器 羽釜	①[19.8]　②(15.2) ③　－	①細粒　②良好 ③橙色　④破片	輪縁整形。口縁部:内傾、内・外面横位。鍔部:三角形状ではま水平。胴部:上位内・外面横位。胴部下位・底部欠損。	39	酸化焔焼成
40	H－12 覆土	土師器 坏	①[13.2]　②　(4.0) ③　－	①細粒　②良好 ③黒褐色　④1/4	口縁・体部:やや外傾気味、内・外面横位。外面に2条の段をもつ。交換点に稜有。底部:浅い丸底、内面横位、外面施削り。放射状暗文有。	15	酸化焔焼成
41	H－13 床直	須恵器 坏	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②良好 ③褐灰色　④破片	輪縁整形。口縁・体部:内・外面横位。底部:内面横位。外面回転糸切り。体部外面と底部内面に墨書。	9	墨書土器
42	H－13 竈	須恵器 高台坏	①[13.8]　②　5.3 ③[7.4]	①細粒　②良好 ③にぶい褐色　④1/2	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。高台。	14	酸化焔焼成
43	H－14 床直	灰　釉 高台坏	①[17.8]　②　5.1 ③　8.3	①細粒　②良好 ③灰白色　④3/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転施削り後付け高台。漬け掛け施釉。	36	
44	H－14 床直	須恵器 小型甕	①　11.6　②　13.4 ③　6.8	①細粒　②良好 ③黒褐色　④5/6	輪縁整形。口縁部:短く外傾、内・外面横位。胴部:内面横位、外面上半部横位で下半部粘土貼付後施削り。底部:平底。施削り。	38	酸化焔焼成
45	H－15 床直	土師器 坏	①　10.8　②　3.8 ③　－	①細粒　②良好 ③橙色　④完形	口縁・体部:短く内傾、内・外面横位。底部:丸底、内面横位、外面施削り。	85	
46	H－15 覆土	土師器 坏	①[21.0]　②　(9.6) ③　－	①細粒　②良好 ③橙色　④1/4	口縁・体部:直立から口縁部端部やや外反、内・外面横位。交換点に強い稜有。底部:内面横位、外面施削り。	4	
47	H－15 床直	土師器 壺	①　－　②(13.5) ③　－	①細粒　②良好 ③橙色　④2/5	口縁部:欠損。胴部:大きく膨らみ内面横位、外面斜位の施削り。底部:浅い丸底、内面横位、外面施削り。煤付着。	118	ほか
48	H－15 竈	土師器 甕	①　21.0　②(34.3) ③　－	①細粒　②良好 ③にぶい橙色　④4/5	口縁部:外反、内・外面横位。胴部:内面横位で一部施削り、外面上半部は縦位、下半部は斜位・横位の施削り。底部欠損。	120	竈袖構築材
49	H－15 竈	土師器 甕	①[19.6]　②(22.7) ③　－	①細粒　②良好 ③にぶい赤褐色　④1/2	口縁部:外反、内・外面横位。胴部:内面横位で一部施削り。外面上半部は縦位の施削り。下半部・底部欠損。	119	竈袖構築材
50	H－16 床直	須恵器 坏	①　10.7　②　3.5 ③　5.3	①細粒　②良好 ③灰黄色　④4/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り。内外面黒色処理。	9	酸化焔焼成
51	H－18 床直	須恵器 高台坏	①　12.6　②　3.1 ③　7.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙色　④2/3	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。高台。	32	ほか
52	H－18 床直	須恵器 高台坏	①[14.3]　②　(7.7) ③　－	①細粒　②良好 ③黒褐色　④1/2	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや内傾、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転施削り後付け高台。内外面黒色処理。	14	酸化焔焼成
53	H－19 床直	土師器 坏	①[12.8]　②　4.5 ③　－	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙色　④2/5	口縁・体部:やや外傾気味、内・外面横位。交換点に稜有。底部:丸底、内面横位、外面施削り。	H－17－4 ほか	
54	H－20 竈	須恵器 坏	①　11.9　②　4.2 ③　5.4	①細粒　②良好 ③灰褐色　④3/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り。	88	酸化焔焼成
55	H－20 床直	須恵器 坏	①　12.7　②　4.2 ③　5.6	①中粒　②良好 ③灰白色　④完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。	34	酸化焔焼成
56	H－20 床直	須恵器 坏	①　12.2　②　3.6 ③　6.2	①細粒　②良好 ③灰黄褐色　④4/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。	43	酸化焔焼成
57	H－20 床直	須恵器 坏	①　12.4　②　3.9 ③　6.1	①細粒　②良好 ③灰黄褐色　④4/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後ナデ。	51	酸化焔焼成
58	H－20 床直	須恵器 坏	①　13.7　②　5.9 ③　7.3	①細粒　②良好 ③灰白色　④ほぼ完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。	35	酸化焔焼成
59	H－20 床直	須恵器 高台坏	①　14.2　②　5.8 ③　6.2	①細粒　②良好 ③褐灰色　④完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転施削り後付け高台。	44	酸化焔焼成
60	H－20 床直	須恵器 高台坏	①　13.7　②　5.2 ③　6.8	①細粒　②良好 ③黒色　④完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。黒色処理。	63	酸化焔焼成
61	H－20 床直	須恵器 高台坏	①　12.7　②　5.1 ③　5.3	①細粒　②良好 ③灰黄褐色　④完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転施削り後付け高台。	51	酸化焔焼成
62	H－20 床直	須恵器 高台坏	①　13.9　②　5.4 ③　6.1	①細粒　②良好 ③にぶい橙色　④完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。	36	酸化焔焼成
63	H－20 床直	須恵器 高台坏	①　12.9　②　4.5 ③　6.9	①細粒　②良好 ③にぶい橙色　④完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。高台の作り粗雑。	73	酸化焔焼成
64	H－20 床直	須恵器 高台坏	①[13.0]　②　5.3 ③　7.1	①細粒　②良好 ③にぶい橙色　④3/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。	83	酸化焔焼成
65	H－20 床直	須恵器 高台坏	①　13.5　②　4.5 ③　6.4	①細粒　②良好 ③にぶい橙色　④4/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。高台の作り粗雑。	31	酸化焔焼成
66	H－20 竈	須恵器 高台坏	①　15.2　②　6.7 ③　7.5	①細粒　②良好 ③褐灰色　④ほぼ完形	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後輪縁使用の付け高台。高台の作り粗雑。	87	酸化焔焼成
67	H－20 覆土	須恵器 高台坏	①[15.1]　②　6.4 ③　7.6	①細粒　②良好 ③灰黄褐色　④4/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転糸切り後付け高台。	21	ほか
68	H－20 床直	灰　釉 高台坏	①[16.2]　②　5.0 ③　7.5	①細粒　②良好 ③灰色　④3/5	輪縁整形。口縁・体部:外傾、内・外面横位。底部:内面横位、外面回転施削り後輪で、高台後付け。漬け掛け施釉。	79	ほか

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
69	H－20 竈	須恵器 甑	① － ②(26.2) ③[21.6]	①細粒 ②良好 ③褐灰色 ④2/5	轆轤整形。口縁部欠損。胴部：内面上位撫で、下位横位の箆削り。外面撫で。胴部内面下位に現存２箇所の窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	21ほか	
70	H－20 竈	須恵器 羽釜	①[18.0] ②(11.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③褐灰色 ④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面撫で。鍔部：丸みを持つ三角形状でやや下がる。胴部：上位内・外面撫で。胴部下位・底部欠損。	85ほか	酸化焔焼成
71	H－20 竈	須恵器 羽釜	①[18.8] ②(21.4) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面撫で。鍔部：三角形状でほぼ水平。胴部：内面撫で、外面上半部撫で、下半部斜位の箆削り。底部欠損。	55ほか	酸化焔焼成
72	H－24 竈	須恵器 高台埦	① 16.0 ② 6.3 ③ 6.3	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	44ほか	酸化焔焼成
73	H－24 竈	須恵器 高台埦	①[15.0] ② 5.3 ③ 6.9	①細粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	42ほか	酸化焔焼成
74	H－24 貯蔵穴	須恵器 瓶	① － ②(11.5) ③ [9.2]	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④1/5	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：下半部から上半部に緩く外傾して開く、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転箆切り後付け高台。自然釉。	12	
75	H－27 床直	須恵器 坏	① 12.6 ② 4.0 ③ 6.3	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	5ほか	酸化焔焼成
76	H－27 床直	須恵器 坏	① 11.2 ② 3.1 ③ 5.2	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	25ほか	酸化焔焼成
77	H－27 床直	須恵器 坏	① 11.7 ② 3.8 ③ [4.6]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	36ほか	酸化焔焼成
78	H－27 床直	須恵器 坏	①[11.9] ② 3.2 ③ 6.1	①細粒 ②良好 ③橙色 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後撫で。	10ほか	酸化焔焼成
79	H－28 床直	須恵器 高台埦	① 12.8 ② 4.8 ③ [6.2]	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	1	酸化焔焼成
80	H－28 柱穴	須恵器 高台埦	① 13.4 ② (3.9) ③ (5.6)	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④5/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。高台部欠損。	2	酸化焔焼成
81	H－29 覆土	土師器 坏	①[13.5] ② 3.9 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/2	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	5ほか	
82	H－29 床直	土師器 坏	① 16.5 ② 6.7 ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④5/6	口縁・体部：直立からやや外傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：稜から内傾を始め平底気味、内面撫で、外面箆削り。	10	
83	H－30 床直	土師器 坏	① 12.0 ② 4.0 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④ほぼ完形	口縁・体部：直立からやや外傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。煤付着。	110ほか	
84	H－30 床直	土師器 坏	① 11.5 ② 4.3 ③ －	①細粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④3/4	口縁・体部：直立からやや外傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。内面黒色処理。	114ほか	
85	H－30 床直	土師器 坏	① 11.8 ② 4.2 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	口縁・体部：直立からやや外傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。	81ほか	
86	H－30 床直	土師器 坏	①[12.2] ② (4.2) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/2	口縁・体部：直立からやや外傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面箆削り。煤付着。	6ほか	
87	H－30 床直	土師器 坏	①[14.6] ② 3.9 ③ －	①細粒 ②良好 ③褐灰色 ④1/2	口縁・体部：やや外傾気味、内・外面横撫で、３条の段をもつ。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	108ほか	
88	H－30 床直	須恵器 蓋	① － ② 4.9 ③[14.6]	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④1/2	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、内面撫で、外面箆削り。	94	
89	H－30 床直	土師器 甕	①[20.0] ②(20.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④破片	口縁部：外反、内・外面撫で。胴部：上半部内面撫で 、外面縦位の箆削り。下半部・底部欠損。	35ほか	
90	H－31 竈	須恵器 坏	① 12.9 ② 4.2 ③ 6.0	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	17	酸化焔焼成
91	H－31 竈	須恵器 高台埦	①[13.6] ② 5.2 ③ 6.2	①中粒 ②良好 ③褐灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。高台の作り粗雑。	24ほか	酸化焔焼成
92	H－32 覆土	須恵器 坏	① 12.2 ② 3.9 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	H－９－22	体部外面墨書
93	H－32 床直	須恵器 坏	① 12.8 ② 3.9 ③ 5.6	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	9ほか	酸化焔焼成
94	H－32 床直	須恵器 高台皿	① 12.9 ② 2.6 ③ 6.5	①細粒 ②良好 ③灰色 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	H－９－30ほか	
95	H－32 床直	土師器 甕	①[20.0] ②(13.0) ③ －	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④口縁破片	口縁部：直立から外傾（「コ」の字）、内・外面撫で。胴部上位：やや膨らみ内面撫で 、外面横位の箆削り。胴部中位以下欠損。	25	
96	H－33 竈	土師器 甕	① 22.0 ②(30.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④5/6	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：上半部やや膨らむ、内面撫で、外面横位・斜位の箆削り。底部欠損。	2ほか	
97	H－33 竈	土師器 甕	①[22.3] ② 33.2 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④4/5	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：上半部やや膨らむ、内面撫で、外面横位・斜位の箆削り。底部：丸底気味。	3ほか	
98	H－35 貯蔵穴	土師器 甕	① － ②(29.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④3/4	口縁部：欠損。胴部：大きく膨らみ、内面撫で一部箆削り、外面縦位・斜位の箆削り。底部：丸底気味。煤付着。	3	
99	T－１ 床直	土師器 坏	① 11.8 ② 4.0 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙色 ④完形	口縁・体部：直立からやや外傾気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	3	
100	W－１ 覆土	須恵器 高台埦	① 12.0 ② (3.9) ③ (6.0)	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙色 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。高台部欠損。	H－35－２	酸化焔焼成
101	W－１ 覆土	須恵器 蓋	① － ② 3.1 ③[12.8]	①細粒 ②良好 ③黄灰色 ④1/2	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜、内・外面撫で、返り有。摘み：環状摘み	7	

注 ① 層位は「床直」：床面より10cm 以内の層位からの検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位からの検出とした。
② 口径・器高・底径の単位はcmである。現存値を（ ）、復元値を[ ]で示した。
③ 胎土は、細粒（0.9mm 以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm 以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。
④ 焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤ 色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.7　石器・石製品・土製品観察表

番号	出土遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備考
1	H－10・覆　土	砥　石	(5.5)	(3.4)	(2.4)	(48.0)	凝灰岩	不　明		
2	H－12・覆　土	軽石製品	8.0	6.9	3.9	119.5	軽　石	完　形	6	砥石か？
3	H－15・覆　土	石　鏃	(1.5)	(1.4)	0.2	(0.3)	黒曜石	ほぼ完形	5	
4	H－15・床　直	臼　玉	1.5	1.4	0.8	2.6	滑　石	完　形	27	
5	H－15・床　直	臼　玉	1.3	1.3	0.4	1.2	滑　石	完　形	113	
6	H－18・覆　土	石　鏃	(2.7)	1.5	0.5	1.2	チャート	完　形	2	
7	H－18・覆　土	勾　玉	2.6	1.3	0.9	3.3	滑　石	完　形	1	
8	H－18・床　直	砥　石	4.4	3.5	2.5	58.5	凝灰岩	完　形	9	穿孔有。
9	H－30・覆　土	垂れ飾り	1.8	1.1	1.0	3.7	滑　石	完　形	46	
10	T－1・覆　土	石　鏃	(2.7)	(1.2)	0.3	0.6	チャート	ほぼ完形	1	
11	W－1・覆　土	臼　玉	1.2	1.2	0.6	1.4	滑　石	完　形		
12	W－1（A区）・覆土	砥　石	(6.2)	(3.4)	(3.3)	(68.0)	凝灰岩	不　明		4面使用。
13	X51、Y118	臼　玉	1.8	1.7	1.1	5.4	滑　石	完　形		
14	X54、Y117	垂れ飾り	4.1	1.3	0.7	6.4	滑　石	ほぼ完形		
15	A区	土　錘	4.8	1.3	1.3	7.2		ほぼ完形		

注　①層位は「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位からの検出とした。
　　②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab.8　鉄製品観察表

番号	出土遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	備考
1	H－7・床直	刀　子	(8.4)	1.1	0.2	12.0	1/2	
2	H－10・床直	釘	(8.3)	0.8	0.8	16.0	ほぼ完形	L字状に屈曲
3	H－20・床直	紡錘車	(11.9)	1.3	1.1	26.2	2/3	
4	H－29・覆土	釘	10.0	0.4	0.4	10.8	ほぼ完形	

Tab.9　瓦観察表

番号	出土遺構・層位	器　種	①長さ ②厚さ	①粘土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－8・竈	平瓦	①(13.5) ②　2.4	①細粒②良好 ③灰黄褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有、一部撫で。凸面：斜行叩き目痕有。撫で。側面：面取り2回。	81	煙道部上部に使用
2	H－11・竈	丸瓦	①(36.0) ②　2.0	①中粒②良好 ③褐灰色④4/5	行基式。凹面：布目有、「十」の箆書き文字2箇所有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	501ほか	壁に使用
3	H－14・竈	丸瓦	①(15.3) ②　1.2	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	行基式。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り1回。	26	左壁に使用
4	H－14・貯蔵穴	丸瓦	①(27.5) ②　1.9	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	行基式。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	331ほか	
5	H－14・貯蔵穴	軒丸瓦	①(14.0) ②　2.4	①細粒②良好 ③褐灰色④1/2	鳥足状蓮弁文、弁間に珠文。接合式。凹面：丸瓦部布目有。凸面：撫で。	32	831年頃製作か？
6	H－16・床直	平瓦	①(27.0) ②　1.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	151ほか	
7	H－20・床直	平瓦	①(13.7) ②　1.7	①細粒②良好 ③褐灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有、一部撫で。凸面：縄叩き後撫で。側面：面取り3回。	23	
8	H－20・床直	平瓦	①(39.5) ②　2.2	①中粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	691ほか	
9	H－20・竈	平瓦	①(19.5) ②　2.6	①中粒②良好 ③灰褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。「句舎」の箆書き文字有。側面：面取り2回。	93	左壁に使用
10	H－20・竈	平瓦	①(15.0) ②　2.7	①細粒②良好 ③褐灰色④破片	一枚作り。凹面：撫で。凸面：撫で、斜行叩き目有。側面：面取り2回。	92	左袖に使用
11	H－31・竈	平瓦	①(33.8) ②　3.2	①中粒②良好 ③褐灰色④1/3	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	25	右壁に使用
12	H－31・竈	平瓦	①(32.9) ②　2.8	①中粒②良好 ③灰褐色④1/2	一枚作り。凹面：布目有。凸面：縄叩き後撫で。側面：面取り2回。	13	右壁に使用
13	H－31・竈	平瓦	①(24.6) ②　2.7	①中粒②良好 ③灰黄褐色④1/2	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	29ほか	奥壁に使用
14	A区	丸瓦	①(11.7) ②　1.5	①中粒②良好 ③にぶい橙色④破片	玉縁式。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り3回。		

注　①層位は「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位からの検出とした。
　　②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Ⅵ　まとめ

本遺跡は元総社町の西部、上野国府推定域の西側に位置し、また、調査区の西には国分僧寺、北には国分尼寺が存する。

調査区は、現道が調査区中央を南北に走るため、現道より西側をＡ区、東側をＢ区とした。遺構確認は現耕作土と浅間Ｂ軽石（As－Ｂ）混土層を取り除き、榛名FP 軽石（Hr－FP）・浅間Ｃ軽石（As－C）を含む暗褐色土層で行った。調査区の地形は、Ａ区（西）からＢ区（東）に向かって次第に低くなり（標高差約１ｍ）、Ｂ区は谷地になって行くと考えられる。

調査の結果、竪穴住居跡35軒、竪穴状遺構３軒、溝跡７条、土坑４基を検出した。

１　集落の変遷について

ここでは、本遺跡で検出された住居跡を元総社蒼海遺跡群で従来より用いられている時期分類に従い、Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以後）の３期に分類し集落の変遷を中心に考えてみることにする。

Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）

縄文時代の遺構は今回検出されなかったが、前期の諸磯ｂ・ｃ式、中期の加曽利Ｅ３・Ｅ４式期の土器が多数出土した。周辺の遺跡においても前期と中期の竪穴住居跡等が検出されていることから、この地に縄文前期から中期にかけて小規模な集落があった可能性が考えられる。

古墳時代の遺構は、６世紀中葉から７世紀初頭のものと考えられる竪穴住居跡が７軒（Ｈ－１・２・５・15・29・30・35）検出された。住居跡の軒数では、全体の20.0％を占める。住居跡の主軸方向はＨ－29号住居跡を除けばＮ－53°－ＥからＮ－84°－Ｅの範囲に収まる。この時期は、Ｈ－15号住居跡に代表されるように、規模が比較的大形（5.74ｍ×5.42ｍ）で正方形に近く、内部には四つの柱穴が規則的に配列され、壁現高も約50㎝と深く、壁際に周溝が巡っているものが多い。また、竈に良質の白色粘土を使用して長胴甕を逆位に被せた状態で両袖先に使用しているもの（Ｈ－15）、竈が住居の南西隅に付くもの（Ｈ－29）、貯蔵穴の周囲に土手状の高まりを作っているもの（Ｈ－１）等それぞれ特色をもった住居跡となっている。この時期の住居跡の立地は調査区西側に集中し、次第に低地になっていくＡ区の東側からＢ区では検出されていない。

Ⅱ期（７世紀～10世紀初頭：律令期）

７世紀から８世紀代（奈良時代）のものと考えられる竪穴住居跡は時期の想定出来たもので6軒（Ｈ－６・７・９・12・19・33）検出された。主軸方向はＨ－12号住居跡を除けばＮ－70°－ＥからＮ－98°－Ｅの範囲に収まる。全容の解っている住居の規模は3.92ｍ×4.66ｍ（Ｈ－７）、3.18ｍ×5.16ｍ（Ｈ－12）であり、形状も南北方向に長軸をもつものが多くなる。特徴的な住居跡としては、全長230㎝の大形の竈を持つＨ－７号住居跡、竈を東壁の北寄りに造り貯蔵穴の周囲に土手状の高まりを作っているＨ－12号住居跡がある。この頃は、比較的古墳時代後期の住居跡と近い様子が窺える。

９世紀代（平安時代）のものと考えられる竪穴住居跡は時期の想定できたもので６軒（Ｈ－16・22・24・28・31・32）検出された。主軸方向はＮ－85°－ＥからＮ－103°－Ｅの範囲に収まる。全容の解っている住居の規模は2.92ｍ×2.58ｍ（Ｈ－22）、2.68ｍ×3.24ｍ（Ｈ－24）であり、この頃になると住居跡の規模が比較的小形化する傾

向にある。また、このころより竈は、大部分が東壁の南寄りに造られるようになり、構築材に瓦が使用されるようになる。

この時期の住居跡は、軒数的には全体の34.2％を占め、時期差はあるものの複数軒重複し、同一地を繰り返し住居として利用していたと考えられる。特に、調査区北西のX48・Y119グリッド付近では、H－17（6世紀中葉から7世紀）→H－19（7世紀から8世紀中葉）→H－9（8世紀後半）→H－32（9世紀中葉）→H－10（10世紀前半）というようにほぼ同じ位置に建築していたことは、この場所が居住に適していた面もあろうが、律令期において何らかの土地利用の規制が働いていたため同一地に建てざるを得なかった可能性も考えられる。

Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以後）

この時期に該当する竪穴住居跡は、時期の想定できたもので11軒（H－3・4・8・10・11・13・14・18・20・21・27）検出された。時期的には、すべて10世紀前半から11世紀前半の範囲に収まると考えられる。主軸方向はN－88°－EからN－106°－Eの範囲に収まる。全容の解っている住居跡の規模は、3.92m×4.66m（H－9）、2.96m×3.90m（H－11）、3.24m×4.20m（H－13）、2.52m×3.12m（H－14）であり、やや規模にばらつきが見られるが、前期の傾向を引き継いでいると考えられる。特徴的な住居跡としては、10世紀前半頃の住居と考えられるH－10・20号住居跡である。この2軒の住居跡は、ほぼ同じ規模を呈し、住居内に酸化焔焼成された坏・高台埦・灰釉陶器・甕・羽釜等多量の遺物を残して廃絶していることから、この時期に何らかの要因により、住居を放棄した可能性が考えられる。また、この時期の住居跡は、軒数的には全体の31.4％を占めるが、特筆されることは、今まで居住地としていなかったB区の低地部分に住居を建築するようになってきたことである。これは、この頃本遺跡地が居住地としてのピークを迎えていたため、居住地として良好とは言えない場所にも住居を建築せざるを得なかった可能性が考えられる。なお、10世紀中葉以降になると本遺跡地の住居跡は急激に減少してくる。これは、この頃に平将門が上野国府を占領したこと等により、国府機能が急激に衰退したことが考えられ、これに伴い国府周辺の人々の居住形態に変化があらわれたものとも考えられる。

2　溝について

本遺跡からは合計7条の溝跡が検出されたが、特筆されるのは、W－1号溝跡である。W－1号溝跡は、本調査区を東西に走り、東端部において北上する最大幅290㎝、最大深179㎝、断面形がV字形（薬研掘りに近い）、埋土にAs－Bを含むことから12世紀初頭以降に掘られたものであると考えられる。この溝跡は、2005年に調査区西側に隣接する元総社蒼海遺跡群（4）の調査において部分的に検出されていたが、今回の調査によって、南東のコーナー部分が検出されたことにより、中世においてこの溝の北側に「館」のような施設があったと考えられる。元総社蒼海地区は中世において蒼海城が存在していたことが知られ、本遺構は蒼海城の西外れに位置するが、この施設と蒼海城が何らかの関係があったことは十分考えられ、今後の調査による全容解明が待たれるところである。

本遺跡地周辺は、縄文時代より現在まで人々の生活が営まれてきた土地である。今まで、本遺跡地周辺の発掘調査は数多く行われており、これからも元総社蒼海土地区画整理事業に伴い発掘調査は継続して行われるが、今後は、今までの点と点の調査成果を結びつけ面的研究を行うことにより国府域及び周辺部の土地利用の解明が可能となると考える。今後の更なる調査結果に期待したい。

〈引用参考文献〉

山武考古学研究所編 『元総社小見内Ⅲ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
斉木一敏・高坂麻子編『元総社小見内Ⅳ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
山武考古学研究所編『元総社小見Ⅲ遺跡 元総社草作Ⅴ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
近藤雅順・稲垣慎太郎編『元総社小見内Ⅶ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
近藤雅順・稲垣慎太郎編『元総社小見内Ⅷ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
高橋一彦・高坂麻子編『元総社小見Ⅳ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
岩崎琢郎・高坂麻子編『元総社小見内Ⅸ遺跡・総社関泉明神北Ⅴ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
スナガ環境測設株式会社『元総社蒼海遺跡群（3）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
近藤雅順・池田史人編『元総社蒼海遺跡群（4）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
高橋 亨・高坂麻子編『元総社蒼海遺跡群（5）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
大崎和久・遠藤たか美編『元総社蒼海遺跡群（6）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年

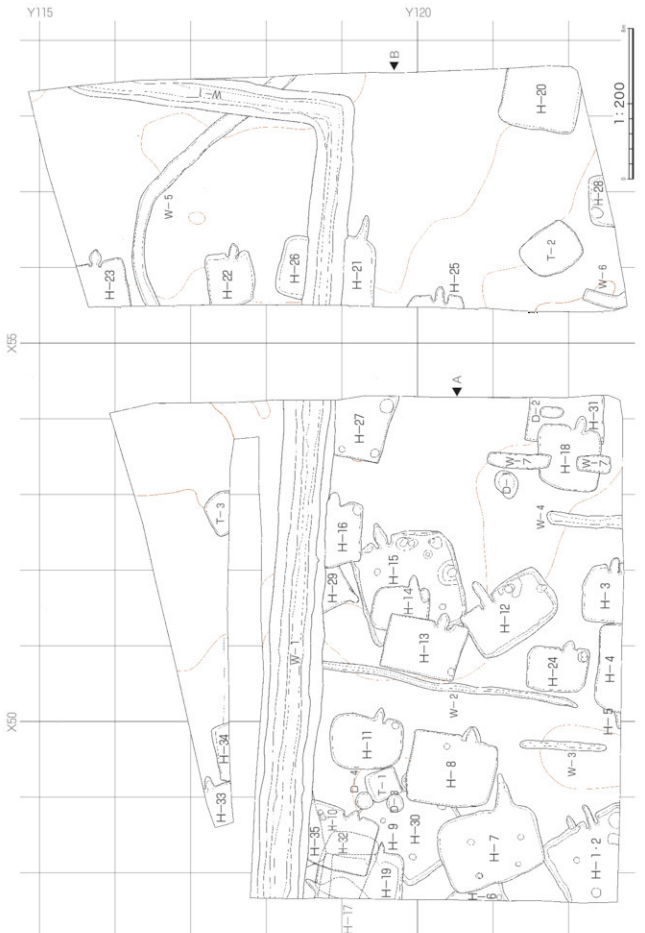
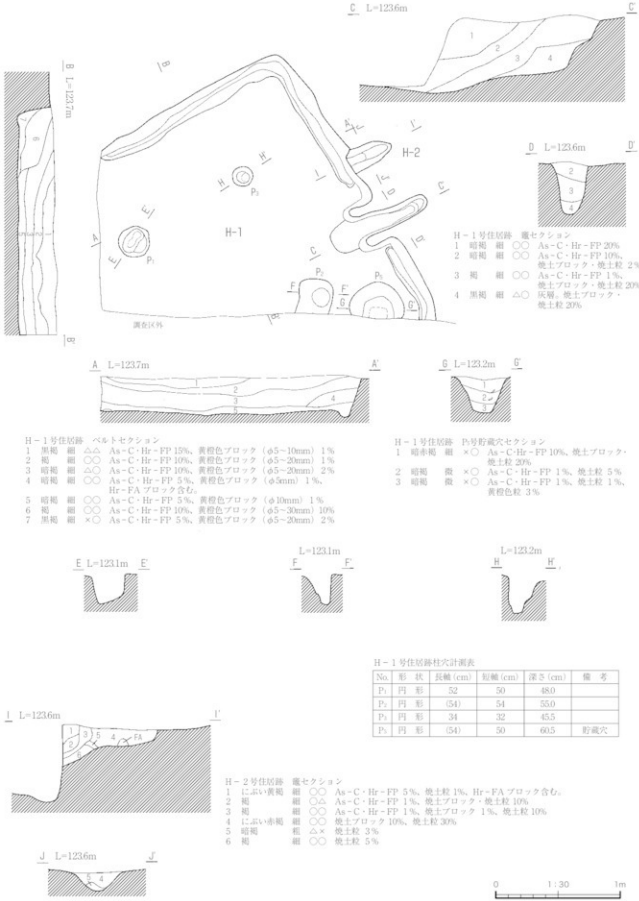


Fig.5　元総社蒼海遺跡群（11）全体図



H－1号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐	細	△△ As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1%
2	褐	細	○○ As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）1%
3	暗褐	細	△○ As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）2%
4	暗褐	細	○○ As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%、Hr－FAブロック含む。
5	暗褐	細	○○ As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ10mm）1%
6	褐	細	○○ As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～30mm）10%
7	黒褐	細	×○ As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）2%

H－1号住居跡　P5号貯蔵穴セクション

1	暗赤褐	細	×○ As－C・Hr－FP 10%、焼土ブロック・焼土粒 20%
2	暗褐	微	×○ As－C・Hr－FP 1%、焼土粒 5%
3	暗褐	微	×○ As－C・Hr－FP 1%、焼土粒 1%、黄橙色粒 3%

H－1号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○○ As－C・Hr－FP 20%
2	暗褐	細	○○ As－C・Hr－FP 10%、焼土ブロック・焼土粒 2%
3	褐	細	○○ As－C・Hr－FP 1%、焼土ブロック・焼土粒 20%
4	黒褐	細	△○ 炭化材、焼土ブロック・焼土粒 20%

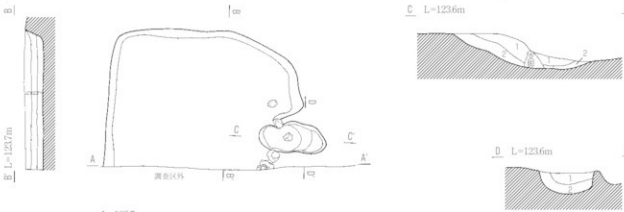
H－1号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	52	50	48.0	
P2	円　形	(54)	54	55.0	
P3	円　形	34	32	45.5	
P5	円　形	(54)	50	60.5	貯蔵穴

H－2号住居跡　竈セクション

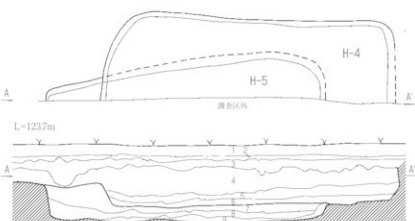
1	にぶい黄褐	細	○○ As－C・Hr－FP 5%、焼土粒 1%、Hr－FAブロック含む。
2	褐	細	○△ As－C・Hr－FP 1%、焼土ブロック・焼土粒 10%
3	褐	細	○○ As－C・Hr－FP 1%、焼土ブロック 1%、焼土粒 10%
4	にぶい赤褐	細	○○ 焼土ブロック 10%、焼土粒 30%
5	暗褐	粗	△× 焼土粒 3%
6	褐	細	○○ 焼土粒 5%

Fig. 6　H－1・2号住居跡

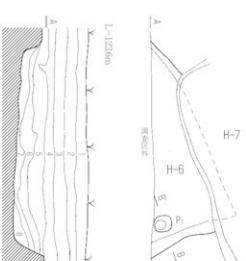


H－3号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　現耕作土
2　褐　細　◎△　現代の水田跡
3　暗褐　細　○△　As－B混土層
4　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%
5　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%
6　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%
7　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%

H－3号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　△○　As－C・Hr－FP 7%
2　暗褐　細　△○　As－C・Hr－FP 5%



H－4・5号住居跡　南壁セクション
1　黒褐　細　○○　現耕作土
2　褐　細　◎△　現代の水田跡
3　暗褐　粗　○△　As－B混土層
4　黒褐　細　○△　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
5　暗褐　細　○△　As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%
6　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%
7　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 2%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%
8　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ3mm）3%
9　暗褐　細　◎○　黄橙色ブロック（φ5mm）5%

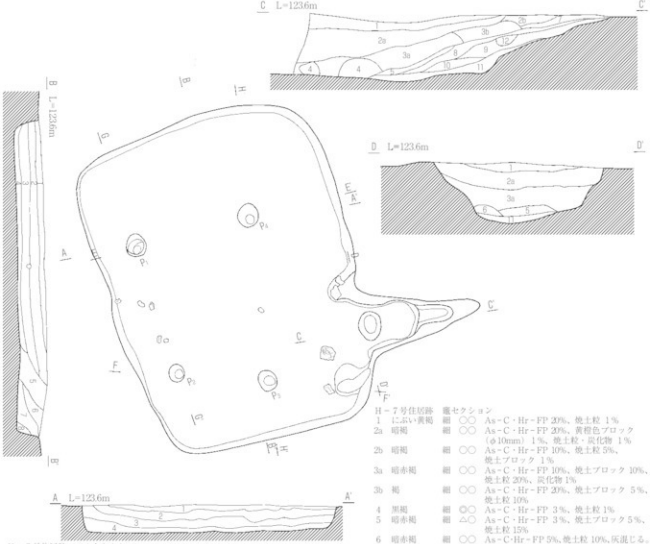


H－6号住居跡　西壁セクション
1　黒褐　細　×○　現耕作土
2　褐　細　◎△　現代の水田跡
3　暗褐　粗　△△　As－B混土層
4　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%
5　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）2%
6　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）5%
7　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）5%
8　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）10%

H－6号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	30	30	53.0	

Fig.7　H－3～6号住居跡



H－7号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐	細	○○	As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ10mm） 1%
2	黒褐	細	○○	As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ10mm） 2%
3	黒褐	細	○○	As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ10mm） 1%
4	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ10～50mm） 3%
5	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～10mm） 3%
6	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 7%、黄橙色ブロック（φ5～10mm） 5%
7	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ5mm） 1%
8	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ5mm） 1%、黄橙色粒 20%

H－7号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐	細	○○	As－C・Hr－FP 20%、焼土粒 1%
2a	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ10mm） 1%、焼土粒・炭化物 1%
2b	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 10%、焼土粒 5%、焼土ブロック 1%
3a	暗赤褐	細	○○	As－C・Hr－FP 10%、焼土ブロック 10%、焼土粒 20%、炭化物 1%
3b	褐	細	○○	As－C・Hr－FP 20%、焼土ブロック 5%、焼土粒 10%
4	黒褐	細	◎○	As－C・Hr－FP 3%、焼土粒 1%
5	暗赤褐	細	△○	As－C・Hr－FP 3%、焼土ブロック 5%、焼土粒 15%
6	暗赤褐	細	○○	As－C・Hr－FP 5%、焼土粒 10%、灰混じる。
7	暗赤褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、焼土ブロック 5%、焼土粒 20%
8	極暗赤褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、焼土粒 20%
9	暗赤褐	細	○○	As－C・Hr－FP 5%、焼土ブロック 5%、焼土粒 10%
10	暗赤褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、焼土ブロック 20%、焼土粒 20%
11	黒褐	微	△○	灰層。
12	赤褐	細	○×	焼土ブロック

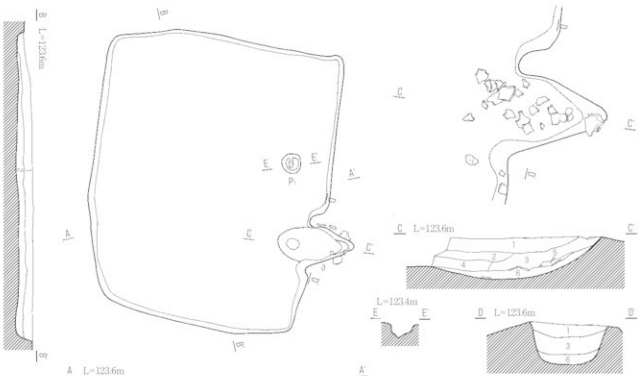
H－7号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	40	30	44.0	
P2	円　形	28	26	48.5	
P3	円　形	32	28	51.5	
P4	円　形	38	32	57.0	

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.8　H－7号住居跡

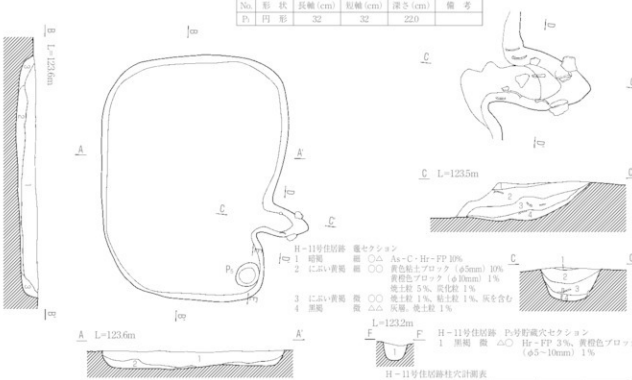


H－8号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ5mm）1％
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色粒 1％
3　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%、黄橙色粒 5％

H－8号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5mm）2％、黄橙色粒 3％
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 7％
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）3％
4　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）1％
5　黒褐　細　○○　黄橙色粒 2％
6　黒褐　微　△○　炭層

H－8号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	円　形	32	32	22.0	



H－11号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　○△　As－C・Hr－FP 10%
2　にぶい黄褐　細　○○　黄色粘土ブロック（φ5mm）10%、黄橙色ブロック（φ10mm）1%、焼土粒 5％、炭化粒 1％
3　にぶい黄褐　微　○○　焼土粒 1％、粘土粒 1％、灰を含む
4　黒褐　微　△△　灰層、焼土粒 1％

H－11号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ10mm）1％
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ50mm）1％
3　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5％

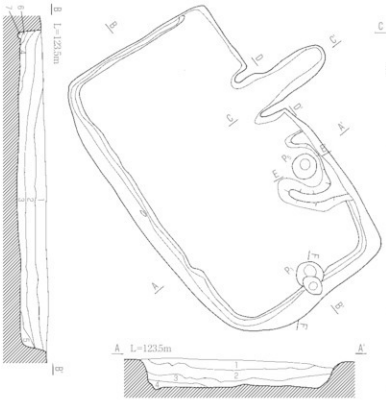
H－11号住居跡　P2号貯蔵穴セクション
1　黒褐　微　△○　Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1％

H－11号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	楕円形	42	36	24.0	貯蔵穴

0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.9　H－8・11号住居跡



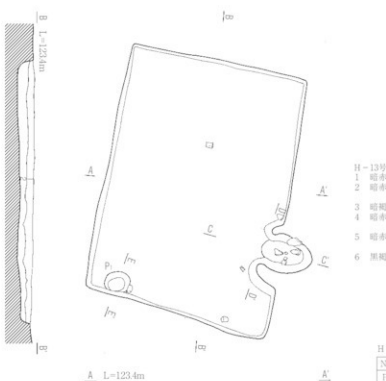
H－12号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）10%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）2%
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
4　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ10mm）15%、黄橙色粒 5%
5　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色粒 20%
6　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 7%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
7　褐　　細　○○　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ5mm）10%

H－12号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、焼土ブロック（φ5～10mm）10%、焼土粒 1%
2　黒褐　細　◎○　As－C・Hr－FP 5%、焼土粒 5%
3　赤褐　細　○△　As－C・Hr－FP 1%、焼土ブロック（φ5～10mm）10%、焼土粒 20%

H－12号住居跡　P1柱穴セクション
1　暗褐　細　△○　As－C・Hr－FP 7%
2　暗褐　細　×○　As－C・Hr－FP 1%
3　暗褐　細　×○　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ10mm）3%

H－12号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	42	42	135	
P2	円　形	40	40	41.0	貯蔵穴



H－13号住居跡　竈セクション
1　暗赤褐　細　△○　焼土主体。
2　暗赤褐　細　△○　焼土ブロック・焼土粒 5%、
　　黄橙色ブロック（φ5mm）2%
3　暗褐　細　△△　焼土粒 3%、焼土ブロック（φ3mm）3%
4　暗赤褐　細　○○　焼土ブロック 5%、
　　粘土ブロック（φ5～20mm）来構壁道部に 20%
5　暗赤褐　細　○○　焼土ブロック 5%、
　　粘土ブロック（φ30mm）10%、炭化物 2%
6　黒褐　　細　○○　炭化物、焼土粒 10%

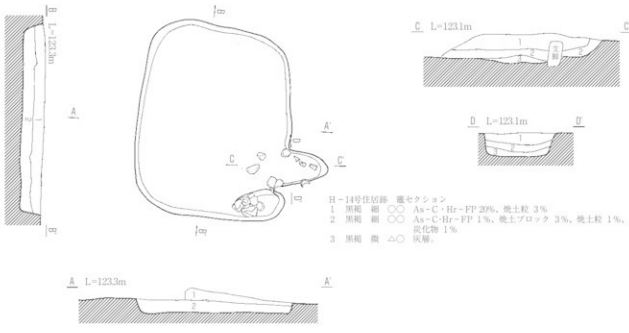
H－13号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	40	30	27.0	

H－13号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ5mm）2%、炭化物 1%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）2%、黄橙色粒 2%

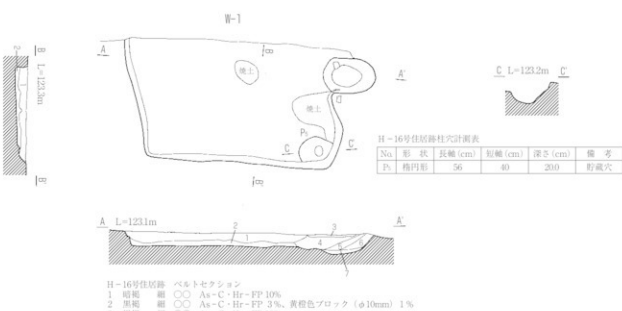
0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.10　H－12・13号住居跡



H－14号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、焼土粒 3％
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1％、焼土ブロック 3％、焼土粒 1％、炭化物 1％
3　黒褐　微　△○　床層。

H－14号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5mm）1％

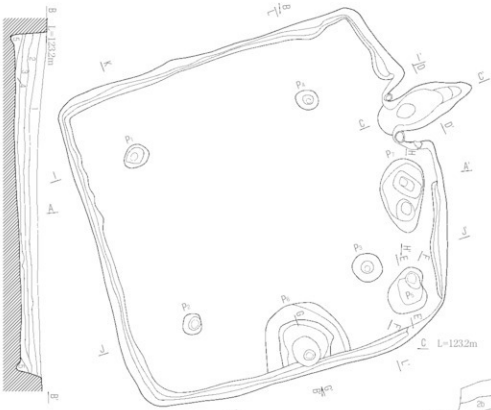


H－16号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	楕円形	56	40	200	貯蔵穴

H－16号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3％、黄橙色ブロック（φ10mm）1％
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%
4　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色粒3%、焼土粒 1％
5　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3％、焼土粒 5％
6　暗赤褐　細　○○　焼土ブロック 5％、焼土粒 30%
7　褐灰　細　△○　床層。焼土ブロック・焼土粒 5％、炭化物 1％

Fig.11　H－14・16号住居跡



H－15号住居跡　竈セクション
1　灰褐　細　○○　灰褐色粘土主体。
2a　褐　細　○○　灰褐色粘土主体。焼土ブロック・焼土粒 5％。
2b　褐　細　○○　灰褐色粘土主体。焼土ブロック・焼土粒 10％。
3　にぶい橙　細　○○　灰褐色粘土主体。焼土ブロック（φ20～50mm）30％。
4　灰褐　細　△○　灰褐、焼土ブロック・焼土粒 5％、炭化物 1％。
5　黒褐　細　△○　As－C・Hr－FP1％、焼土粒 10％、灰が薄く入る。
6　にぶい赤褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1％、焼土粒 5％。

H－15号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）5％
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）2％
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3％
4　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5％、黄橙色ブロック（φ5～30mm）1％
5　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3％、黄橙色ブロック（φ5mm）10％

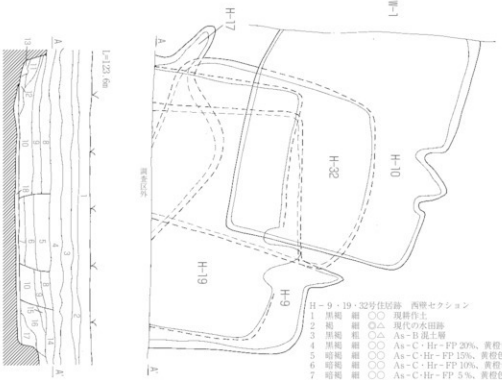
H－15号住居跡　P1貯蔵穴セクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5％、黄橙色ブロック（φ15mm）5％
2　褐　細　△○　As－C・Hr－FP 2％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）30％
3　暗褐　細　△○　As－C・Hr－FP 2％、黄橙色ブロック（φ5～20mm）20％
4　褐　細　△×　As－C・Hr－FP 1％、黄橙色ブロック（φ3～10mm）3％
5　にぶい黄褐　細　××　黄橙色ブロック（φ5～20mm）主体

H－15号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	42	36	46.0	
P2	楕円形	34	30	55.5	
P3	円　形	48	44	66.5	
P4	楕円形	38	30	50.0	
P5	楕円形	78	60	70.5	貯蔵穴
P6	楕円形	136	102	48.5	
P7	楕円形	118	68	67.0	貯蔵穴

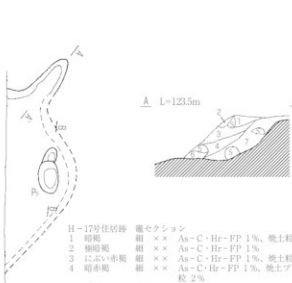
0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.12　H－15号住居跡



H－9・19・32号住居跡　西壁セクション

1	黒褐	細	○○	現耕作土
2	褐	細	○△	現代の水田跡
3	黒褐	粗	○△	As－B混土層
4	黒褐	細	○○	As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1％
5	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1％（H－32）
6	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）1％（H－32）
7	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 5％、黄橙色ブロック（φ5～15mm）5％（H－32）
8	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）5％（H－9）
9	黒褐	細	○○	As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）2％（H－9）
10	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 7%、黄橙色ブロック（φ20mm）1％（H－9）
11	黒褐	細	○○	As－C・Hr－FP 7％（H－9）
12	褐	細	○○	As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）20%（H－9）
13	褐	細	○○	As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%（H－9）
14	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 15%（H－19）
15	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 15%、黄橙色粒 5％（H－19）
16	暗褐	細	○○	As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ10mm）2％（H－19）
17	褐	細	○○	As－C・Hr－FP 2%（H－19）
18	暗褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%（H－19）



H－17号住居跡　遺セクション

1	暗褐	細	××	As－C・Hr－FP 1％、焼土粒 1％
2	黒暗褐	細	××	As－C・Hr－FP 1％
3	にぶい赤褐	細	××	As－C・Hr－FP 1％、焼土粒 1％
4	暗赤褐	細	××	As－C・Hr－FP 1％、焼土ブロック・焼土粒 2％
5	赤褐	細	△×	焼土主体
6	にぶい赤褐	細	××	黄橙色ブロック（φ5mm）2%、焼土粒 5％
7	暗赤褐	細	○×	As－C 1％、焼土粒 1％

H－19号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	34	25	18.0	

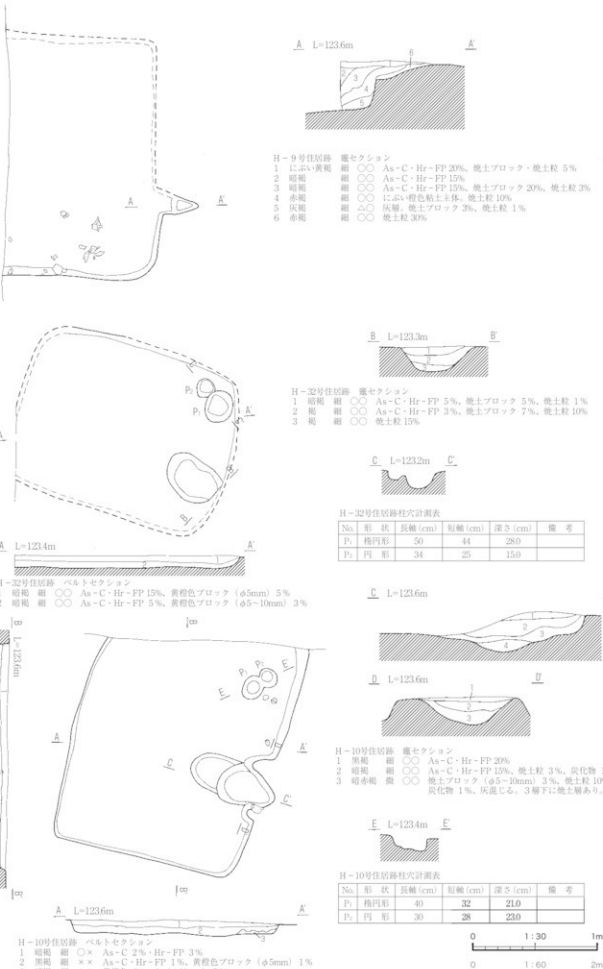
H－17号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P2	楕円形	74	33	25.0	貯蔵穴

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.13　H－17・19号住居跡



H－9号住居跡　竈セクション
1　にぶい黄褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、焼土ブロック・焼土粒 5%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%
3　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、焼土ブロック 20%、焼土粒 3%
4　赤褐　細　○○　にぶい橙色粘土主体、焼土粒 10%
5　灰褐　細　△○　灰層、焼土ブロック 3%、焼土粒 1%
6　赤褐　細　○○　焼土粒 30%

H－32号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、焼土ブロック 5%、焼土粒 1%
2　褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、焼土ブロック 7%、焼土粒 10%
3　褐　細　○○　焼土粒 15%

H－32号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	50	44	28.0	
P2	円　形	34	25	15.0	

H－32号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5mm）5%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%

H－10号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、焼土粒 3%、炭化物 1%
3　暗赤褐　微　○○　焼土ブロック（φ5～10mm）3%、焼土粒 10%、炭化物 1%、灰混じる。3層下に焼土層あり。

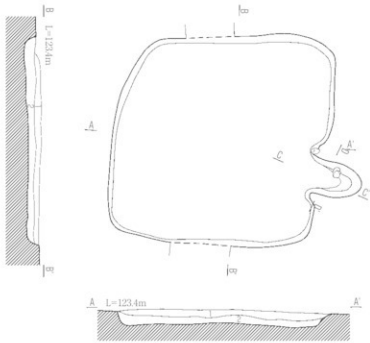
H－10号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	40	32	21.0	
P2	円　形	30	28	23.0	

H－10号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○×　As－C 2%・Hr－FP 3%
2　黒褐　細　××　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
3　暗褐　細　△△　黄橙色ブロック（φ10mm）5%

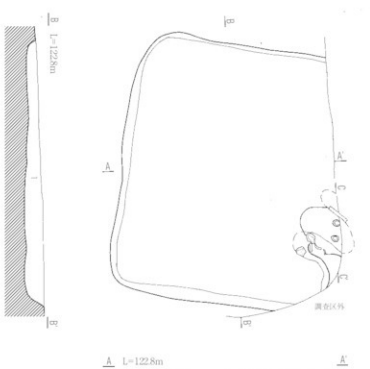
0　1:30　1m
0　1:60　2m

Fig.14　H－9・10・32号住居跡



H－18号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○△　As－C・Hr－FP 20%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1%

H－18号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　△△　As－C・Hr－FP 10%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、焼土粒 1%
3　暗赤褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、焼土ブロック・焼土粒 2%



H－20号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As－C 1%、黄橙色粒 3%、炭化物 1%
2　暗赤褐　細　○○　As－C 3%、焼土ブロック 3%・焼土粒 1%

H－20号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C 10%、Hr－FP 3%

0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.15　H－18・20号住居跡

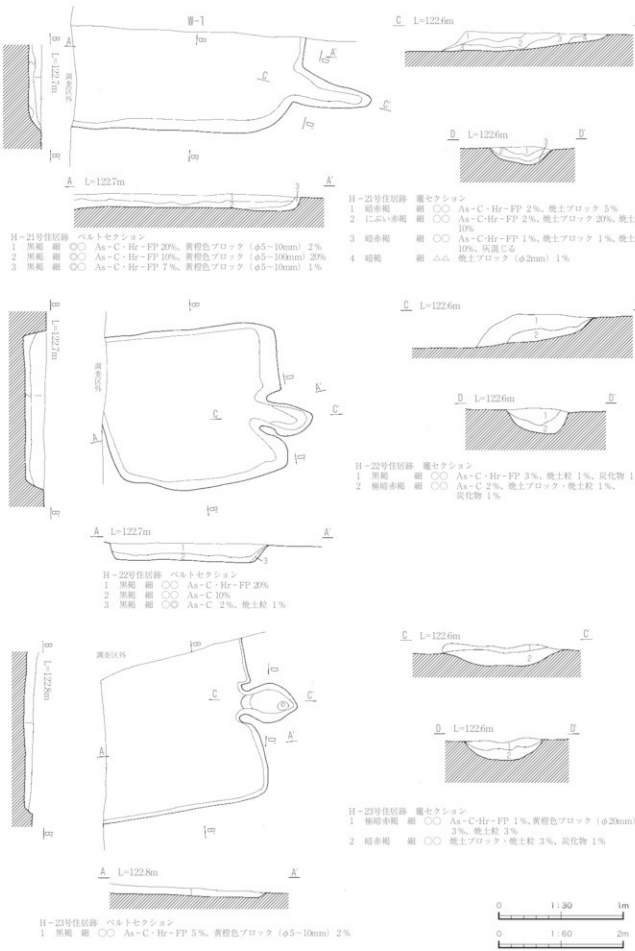
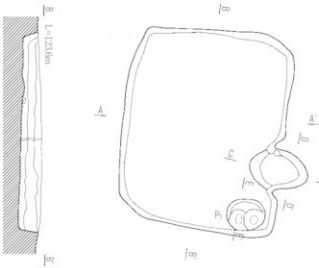
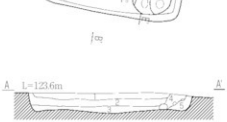


Fig.16 H-21～23号住居跡



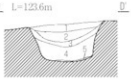


H－24号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%
2　黒褐　細　△○　As－C・Hr－FP 7%、暗褐色粘土ブロック（φ5～10mm）1%
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ10mm）2%
4　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、暗褐色粘土ブロック（φ50～100mm）15%
5　黒褐　微　○○　As－C・Hr－FP 1%、暗褐色粘土ブロック（φ5～10mm）1%

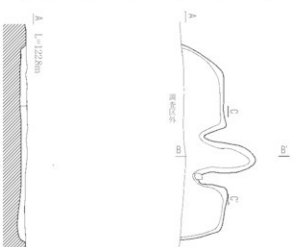
H－24号住居跡　P5貯蔵穴セクション
1　黒褐　微　△○　Hr－FP 1%、黄橙色粒 1%、炭化物 1%

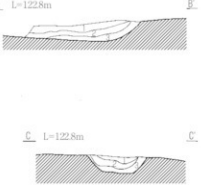
H－24号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備　考
P5	楕円形	62	52	21.0	貯蔵穴



H－24号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、灰褐色粘土ブロック（φ5～10mm）3%、焼土粒 3%
3　褐　細　○○　灰褐色粘土主体、焼土粒 5%
4　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%、灰褐色粘土ブロック（φ5mm）10%、焼土ブロック 10%
5　黒褐　微　△○　灰層。



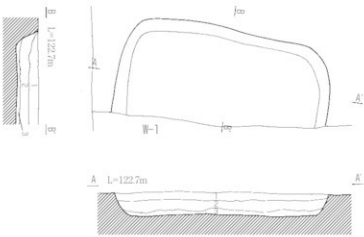


H－25号住居跡　竈セクション
1　極暗赤褐　細　○○　As－C 1%、焼土ブロック 3%、焼土粒 2%
2　暗赤褐　細　○○　As－C 1%、焼土ブロック 15%、焼土粒 10%、炭化物 2%
3　極暗赤褐　細　△○　焼土ブロック・焼土粒 2%、灰混じる。

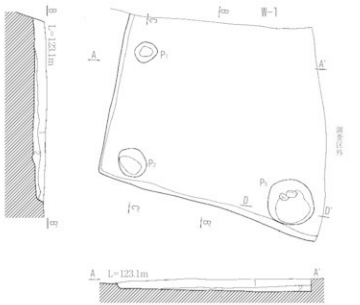
H－25号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C 1%

0　1：30　1m
0　1：60　2m

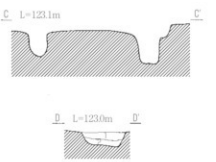
Fig.17　H－24・25号住居跡



H－26号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、
　　黄橙色ブロック（φ5～10mm）1%
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%



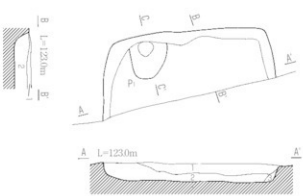
H－27号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1%



H－27号住居跡　P3貯蔵穴セクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、焼土粒 1%
2　黒　　細　△○　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色粒 3%

H－27号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	円　形	36	32	36.0	
P2	楕円形	52	38	45.5	
P3	楕円形	78	70	29.0	貯蔵穴



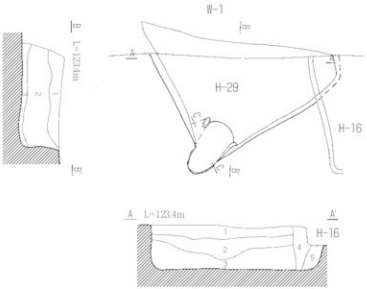
H－28号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 7%
2　黒褐　細　△○　As－C 3%
3　暗褐　細　○○　As－C 1%、黄橙色ブロック（φ20mm）1%

H－28号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	楕円形	60	58	12.5	

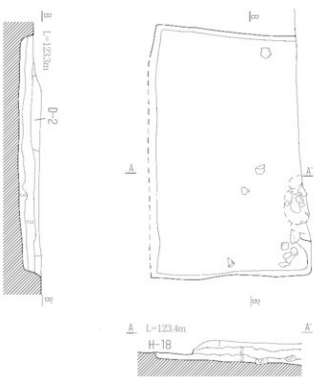
0　1:30　1m

Fig.18　H－26～28号住居跡



H－29号住居跡　竈セクション
1　褐暗褐　細　△△　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～40mm）30%
2　褐　細　△△　As－C・Hr－FP 1%
3　暗赤褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、焼土ブロック 1%、焼土粒 3%
4　暗赤褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、焼土ブロック 5%、焼土粒 5%
5　暗赤褐　細　△△　As－C・Hr－FP 2%、焼土ブロック 7%、焼土粒 3%、炭化物 2%

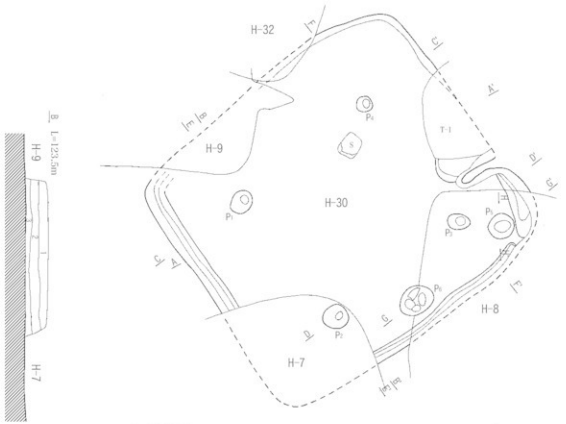
H－29号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～50mm）5%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～50mm）7%、黄橙色粒 10%
3　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 7%、黄橙色ブロック（φ5～100mm）20%、黄橙色粒 20%
4　黒褐　細　△△　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ10mm）1%
5　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～50mm）10%



H－31号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）1%

0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.19　H－29・31号住居跡



H－30号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%、黄橙色粒 5%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ10mm）5%
3　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）1%

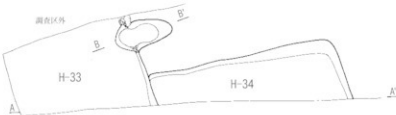
H－30号住居跡　P5貯蔵穴セクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、
　　黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%、黄橙色粒 10%
2　褐　　微　△○　黄橙色粒 50%、黄橙色ブロック（φ20mm）5%
3　褐　　微　×○　黄橙色粒 50%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%

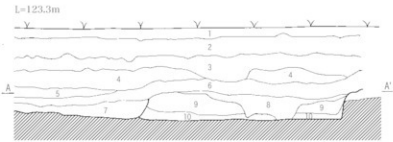
H－30号住居跡柱穴計測表

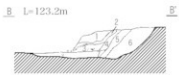
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	40	32	41.5	
P2	円　形	42	40	47.5	
P3	楕円形	36	24	51.0	
P4	円　形	26	22	55.0	
P5	円　形	44	40	59.5	貯蔵穴
P6	楕円形	58	46	24.5	

0　1:30　1m

Fig.20　H－30号住居跡

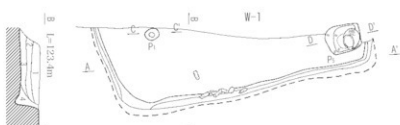


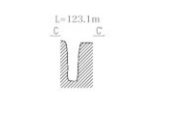




H－33・34号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　現耕作土
2　暗　　細　○△　現代の水田跡
3　黒褐　粗　○△　As－B混土層
4　暗褐　細　△○　As－C 3%、Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
5　暗褐　細　△○　As－C 3%、Hr－FP 5%
6　暗褐　細　×○　As－C 3%、Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ10～40mm）2%
7　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
8　黒褐　細　△○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%
9　黒褐　細　△△　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ5～50mm）5%
10　黒褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ5～50mm）2%

H－33号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　△○　黄橙色粒 2%
2　暗赤褐　細　△△　黄橙色ブロック（φ5mm）5%、焼土ブロック 5%
3　黒褐　　細　△○　黄橙色粒 2%
4　暗赤褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ7mm）2%、焼土ブロック 10%
5　焼暗赤褐　細　△○　黄橙色粒 2%
6　暗赤褐　　細　○○　黄橙色ブロック（φ5mm）10%
7　黒　　細　×○　伏層。



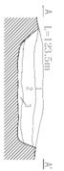


H－35号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 20%、黄橙色ブロック（φ5～15mm）5%
2　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）7%
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）1%
4　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%、黄橙色ブロック（φ10mm）1%、黄橙色粒 20%

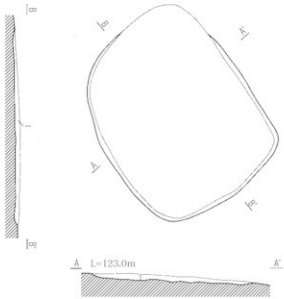
H－35号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	22	20	64.0	
P3	長方形	50	42	87.5	貯蔵穴

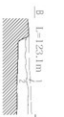
Fig.21　H－33～35号住居跡

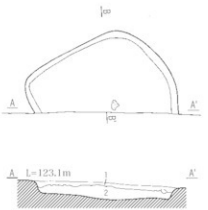


T－1号竪穴状遺構　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 15%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）5%
3　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 3%、黄橙色ブロック（φ10mm）2%

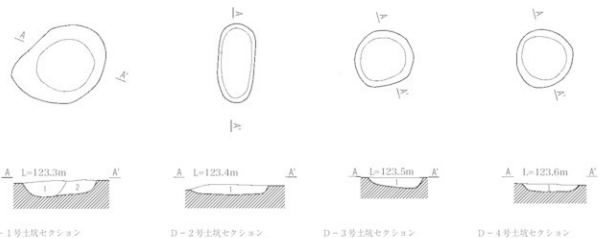


T－2号竪穴状遺構　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 5%





T－3号竪穴状遺構　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As－C・Hr－FP 7%、
　　黄橙色ブロック（φ5mm）5%
2　暗褐　細　○○　As－C・Hr－FP 1%



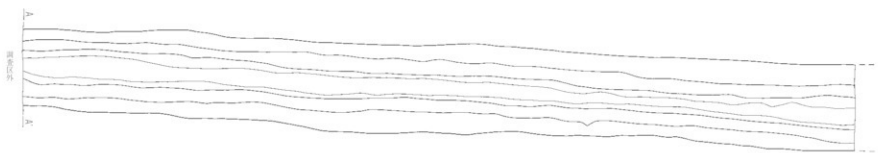
D－1号土坑セクション
1　黒褐　細　△△　As－C・Hr－FP 2%
2　暗褐　細　△△　As－C・Hr－FP 3%

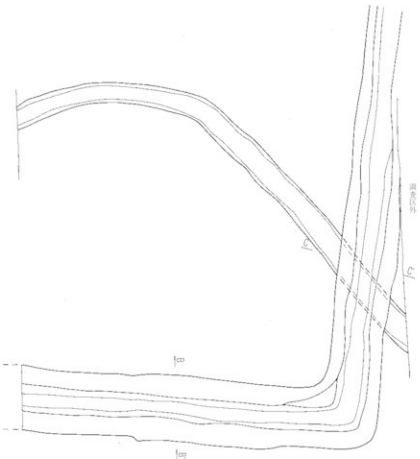
D－2号土坑セクション
1　黒褐　粗　◎×　As－B 50%、
　　Hr－FP 1%

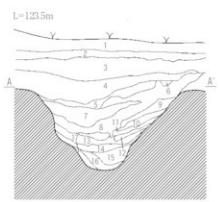
D－3号土坑セクション
1　黒褐　粗　○×　As－B 50%、
　　Hr－FP 1%

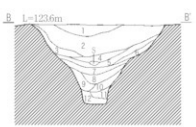
D－4号土坑セクション
1　黒褐　粗　○×　As－B 50%、
　　Hr－FP 1%

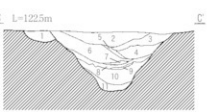
Fig.22　T－1～3号竪穴状遺構、D－1～4号土坑











W－1号溝跡　西壁セクション
1　黒褐　　細　○○　現耕作土
2　褐　　細　●△　現代の水田跡
3　黒褐　　粗　○△　As-B 混土層
4　暗褐　　粗　○△　As-B 20%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）10%
5　黒褐　　細　○△　As-B 10%
6　暗褐　　細　△△　As-B 20%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）5%
7　暗褐　　細　△△　As-B 15%、黄橙色粒 10%
8　褐　　細　○△　As-B 5%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）70%
9　暗褐　　細　△○　As-B 10%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）50%
10　暗褐　　細　△△　As-B 10%、黄橙色粒 15%
11　暗褐　　微　○○　As-B 10%
12　褐　　微　△△　As-B 5%、黄橙色粒 50%
13　黒褐　　細　△○　As-C 5%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）3%
14　にぶい黄褐　細　○○　黄橙色ブロック主体
15　暗褐　　細　△○　黄橙色ブロック（φ10～30mm）30%
16　にぶい黄褐　細　○×　黄橙色ブロック（φ10～20mm）50%
17　褐　　微　△×　黄橙色ブロック（φ10～20mm）10%

W－1号溝跡　ベルトセクション
1　黒褐　　粗　○○　As-B混土層
2　にぶい黄褐　細　△○　As-B 20%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）10%
3　暗褐　　細　○△　As-B 10%
4　にぶい黄褐　粗　△△　黄橙色ブロック主体、As-B 1%
5　にぶい黄褐　粗　×△　As-B 20%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）5%
6　暗褐　　細　○○　As-B 10%
7　にぶい黄褐　微　○×　黄橙色粒主体
8　にぶい黄褐　細　△△　As-B 10%、黄橙色ブロック（φ10mm）5%
9　暗褐　　細　△△　As-B 10%
10　暗褐　　細　△○　As-B 5%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）10%
11　にぶい黄褐　細　○○　黄橙色ブロック主体
12　にぶい黄褐　細　△○　黄橙色ブロック（φ10mm）20%

W－1・5号溝跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○△　As-C＋Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%（W－5）
2　黒褐　粗　○○　As-B 10%
3　黒褐　細　○○　As-C 5%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%
4　黒褐　細　△△　As-C 10%、黄橙色ブロック（φ1mm）1%
5　黒褐　細　○○　As-C 5%、黄橙色ブロック（φ1mm）1%
6　暗褐　細　○△　As-C 3%、黄橙色ブロック（φ3mm）1%
7　黒褐　細　○◎　シルト層、黄橙色ブロック（φ1mm）1%
8　暗褐　細　○◎　シルト層、粘土、黄橙色ブロック（φ3mm）1%
9　暗褐　細　○◎　シルト層
10　黒褐　細　○◎　As-B 20%
11　黒褐　細　△○　As-B 15%、赤褐色ブロック

0　1：60　2m

Fig.23　W－1溝

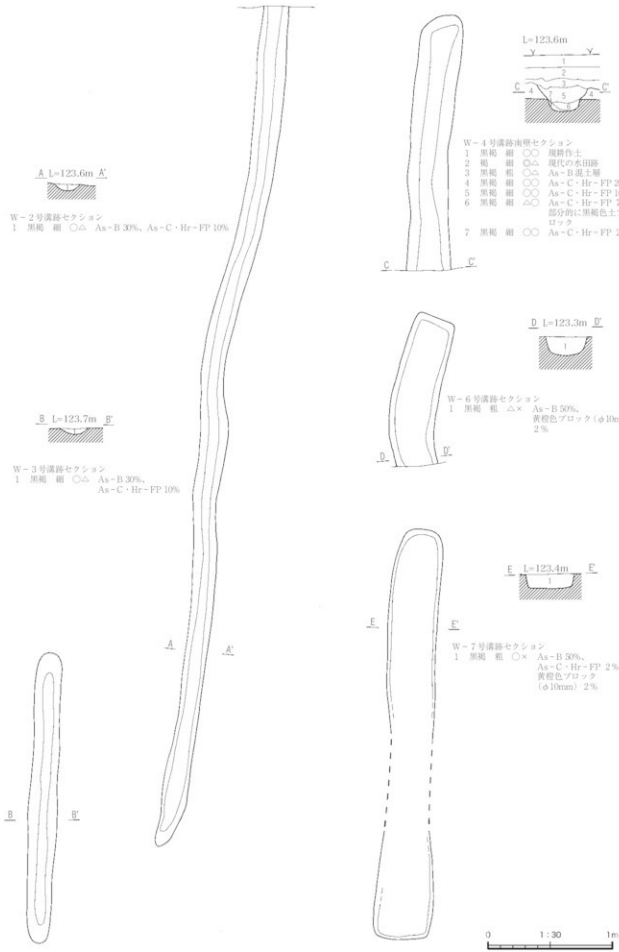


Fig.24 W－2～4・6・7号溝跡

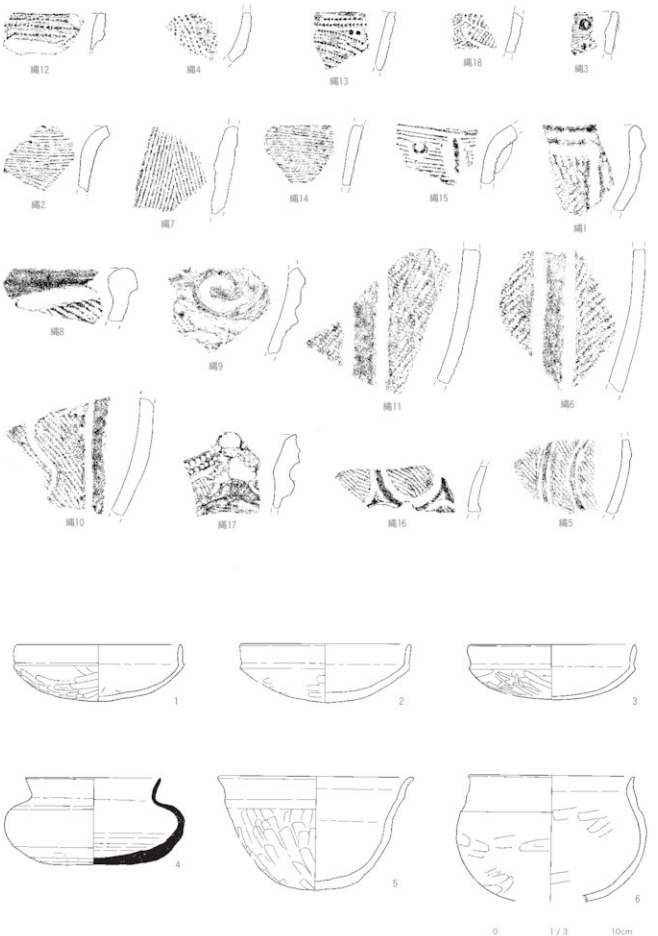


Fig.25　縄文・H－1号住居跡出土遺物

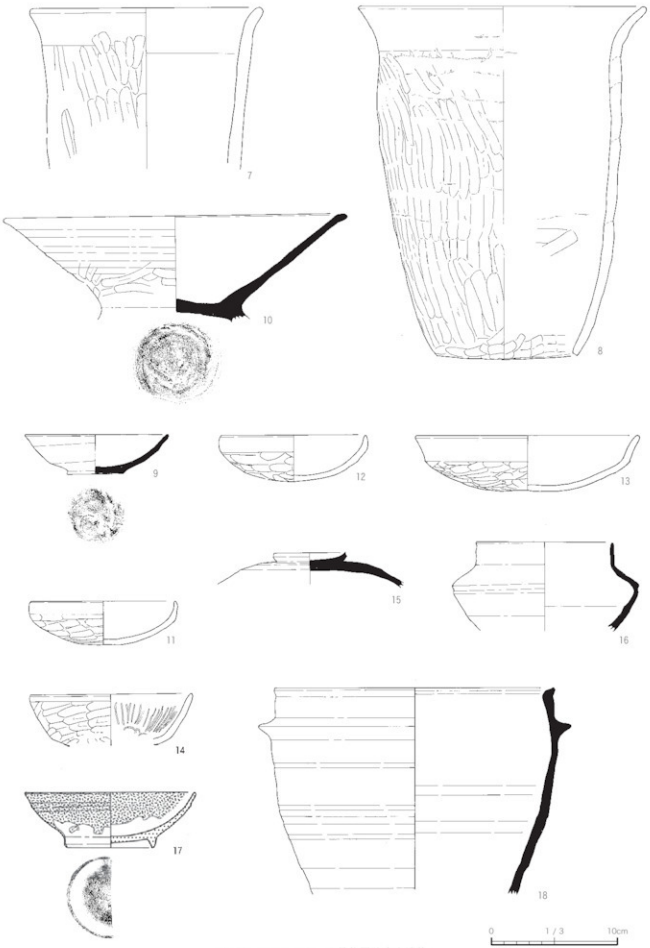


Fig.26　H－1・3～8号住居跡出土遺物

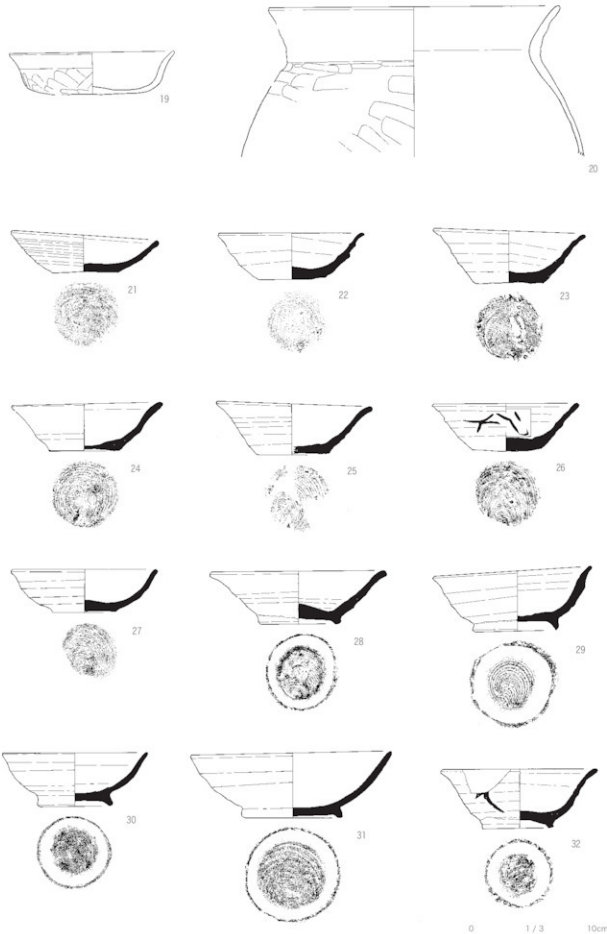


Fig.27　H－9・10号住居跡出土遺物

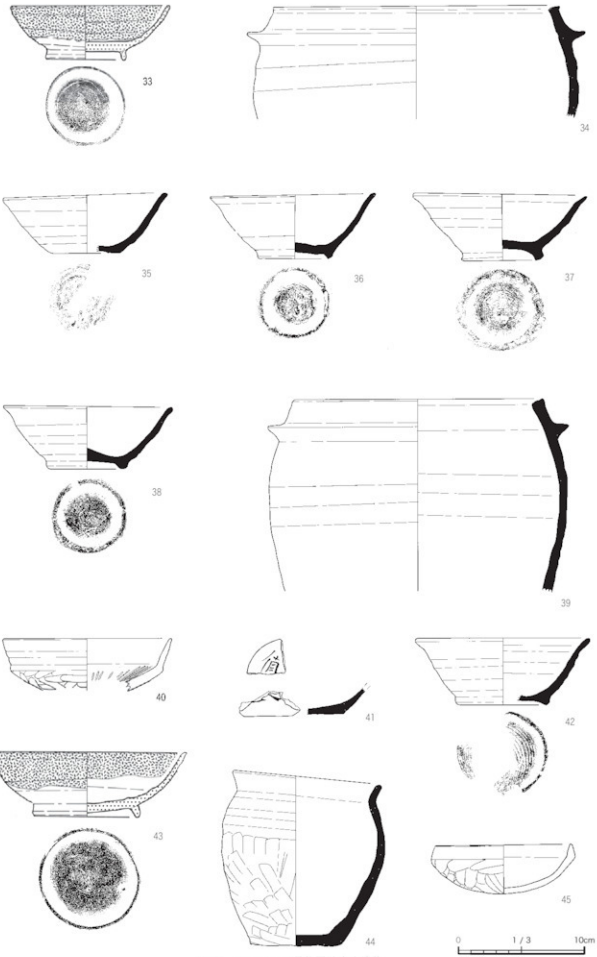


Fig.28　H－10～15号住居跡出土遺物

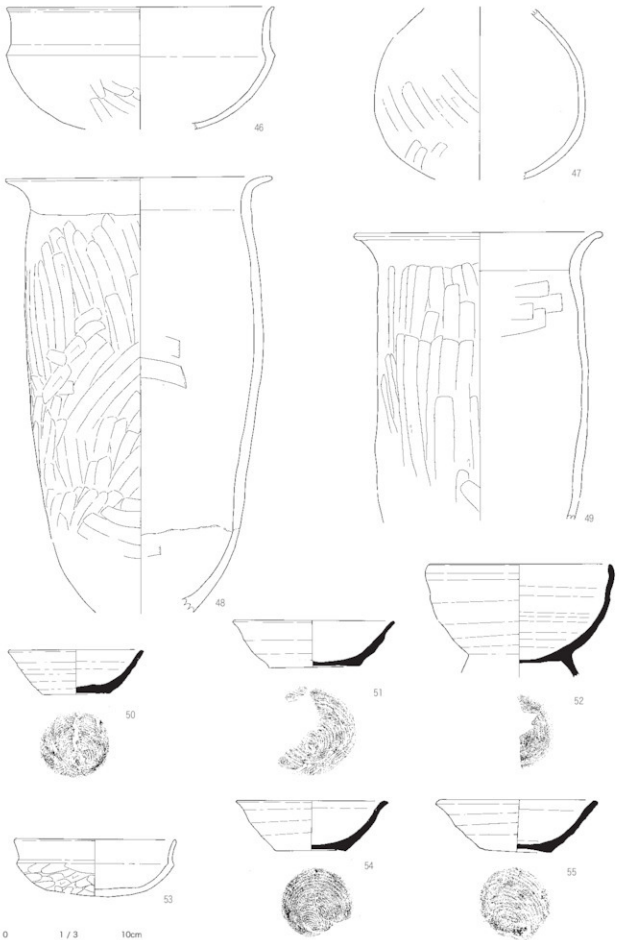


Fig.29　H－15・16・18～20号住居跡出土遺物

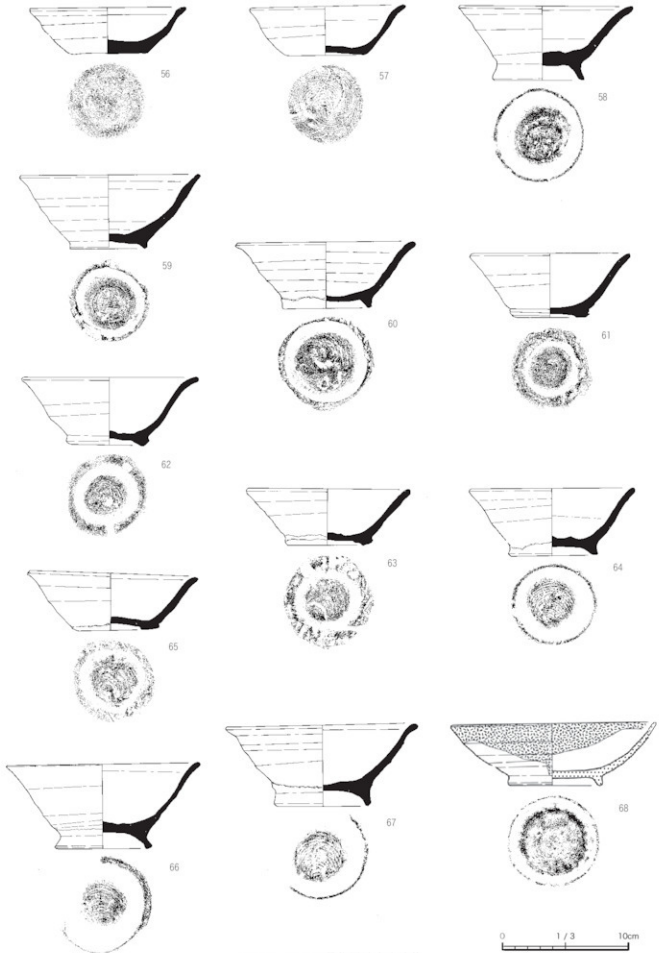


Fig.30　H－20号住居跡出土遺物

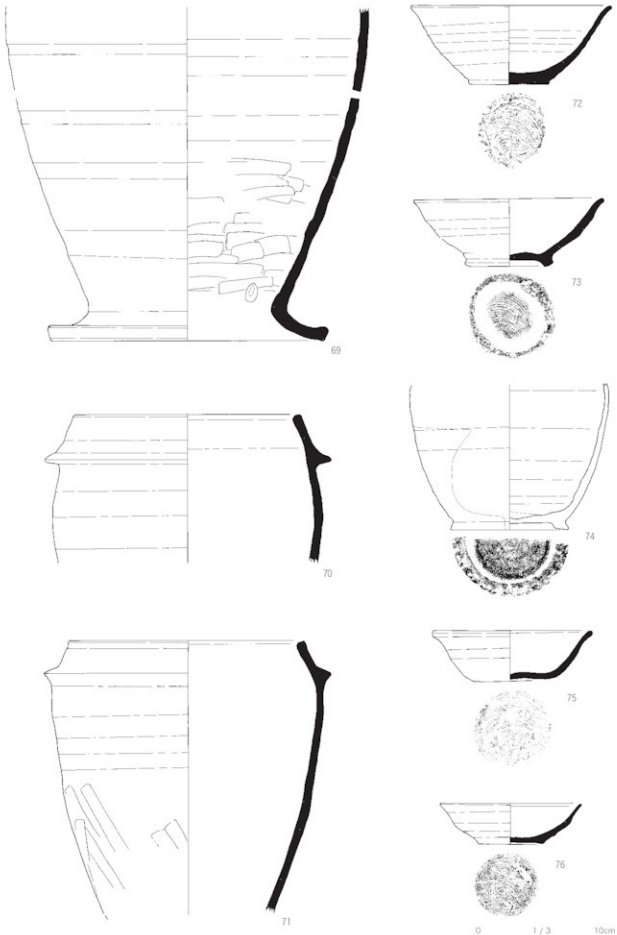


Fig.31　H－20・24・27号住居跡出土遺物

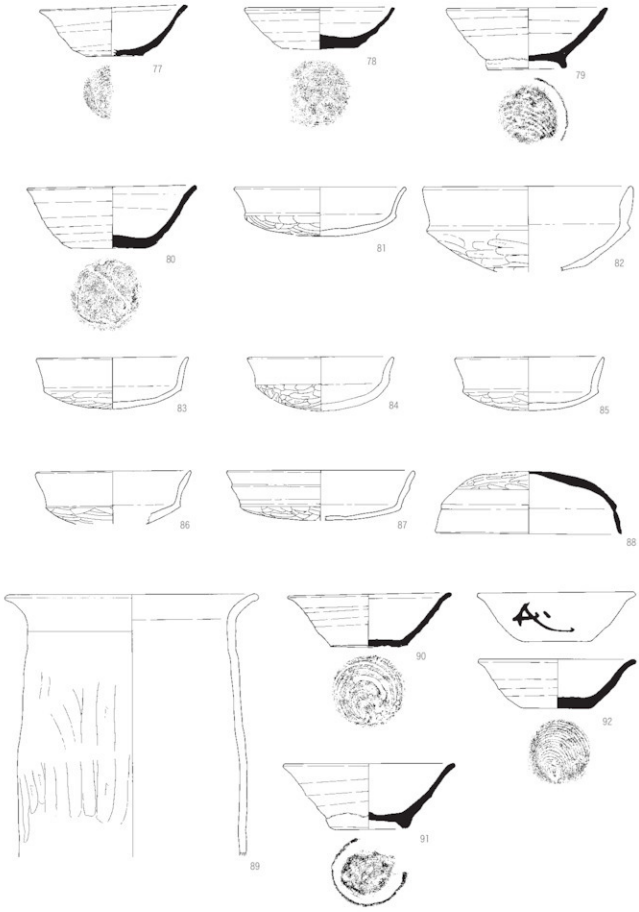


Fig32　H－27～32号住居跡出土遺物

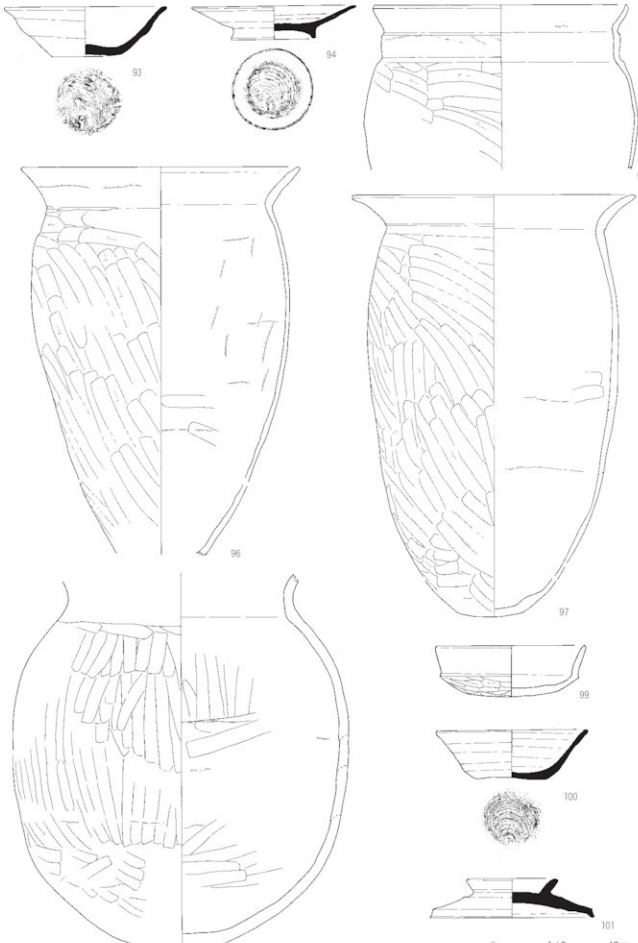


Fig.33　H－32・33・35号住居跡・T－1号竪穴状遺構・W－1号溝跡出土遺物

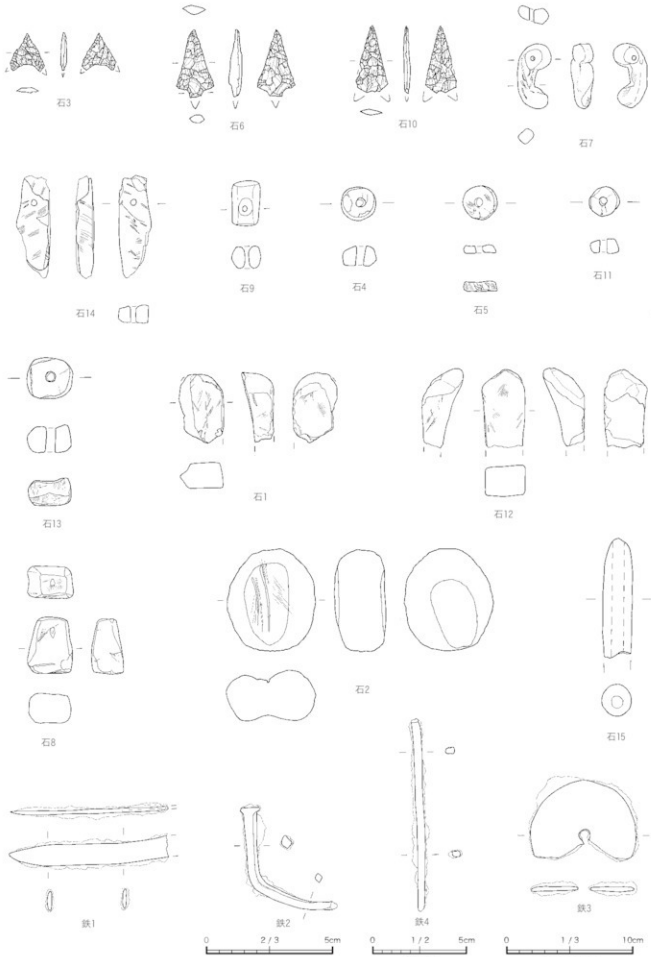


Fig.34　石器・石製品・土製品・鉄製品

Fig.35 埴（1）

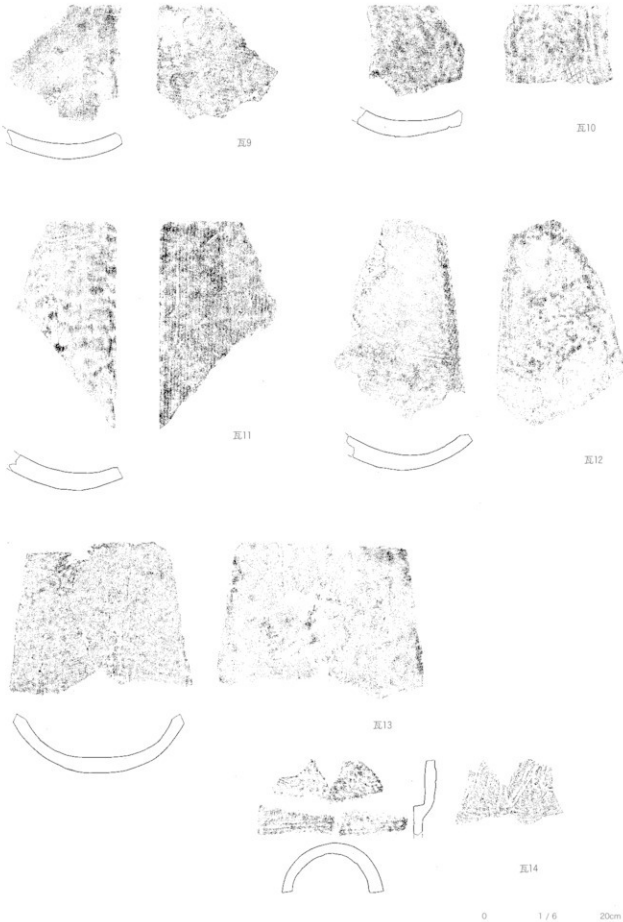
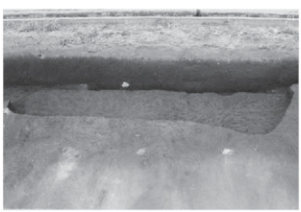


Fig.36 埴（2）

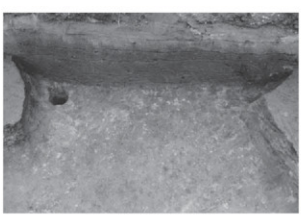
H－1・2号住居跡全景（西から）

H－3号住居跡全景（西から）

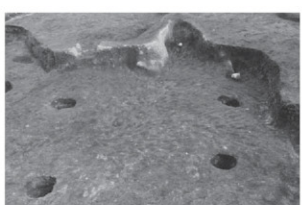


H－4号住居跡全景（北から）

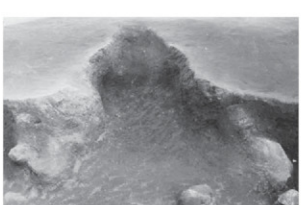
H－5号住居跡全景（西から）



H－6号住居跡全景（東から）



H－7号住居跡全景（西から）

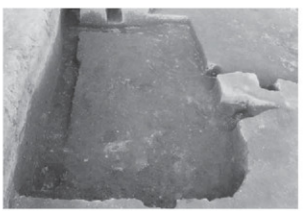


H－7号住居跡竈全景（西から）

H－8号住居跡全景（西から）

H－8号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

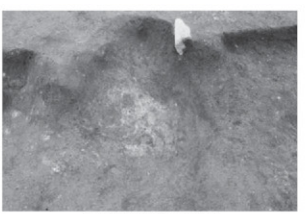
H－8号住居跡竈構築状況（西から）



H－9号住居跡全景（南から）

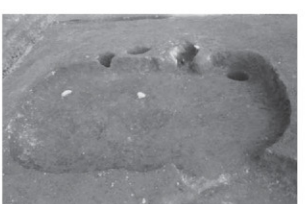
H－9号住居跡竈全景（西から）

H－10号住居跡全景（西から）



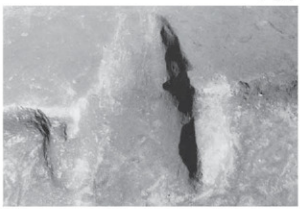
H－10号住居跡竈全景（西から）

H－10号住居跡遺物出土状況（西から）



H－11号住居跡全景（西から）

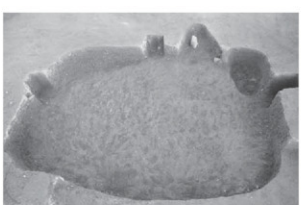
H－12号住居跡全景（南から）



H－12号住居跡遺全景（西から）

H－13号住居跡全景（西から）

H－13号住居跡遺全景（西から）



H－14号住居跡全景（西から）

H－14号住居跡遺全景（西から）

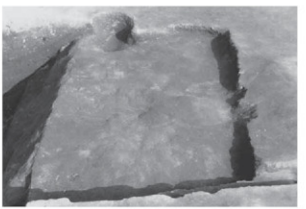
H－14号住居跡遺物出土状況（西から）

H－14号住居跡瓦出土状況（南から）

H－15号住居跡全景（西から）

H－15号住居跡竈全景（西から）

H－15号住居跡竈両袖構築状況（西から）



H－16号住居跡全景（西から）

H－17号住居跡全景（南から）

H－18号住居跡全景（西から）

H－18号住居跡竈全景（西から）

H－19号住居跡竈全景（南から）

H－20号住居跡全景（西から）

H－20号住居跡竈全景（西から）

H－20号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

H－21号住居跡全景（西から）

H－22号住居跡全景（西から）

H－22号住居跡竈全景（西から）

H－23号住居跡全景（西から）

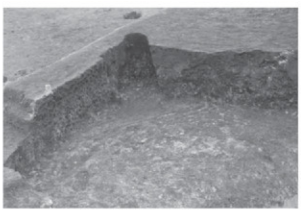
H－24号住居跡全景（西から）

H－25号住居跡全景（西から）

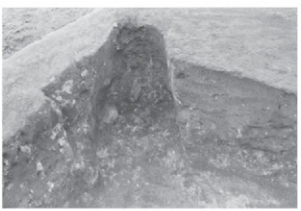
H－26号住居跡全景（西から）

H－27号住居跡全景（西から）

H－28号住居跡全景（西から）



H－29号住居跡全景（北東から）



H－29号住居跡竈全景（北東から）

H－30号住居跡全景（西から）

H－31号住居跡全景（西から）

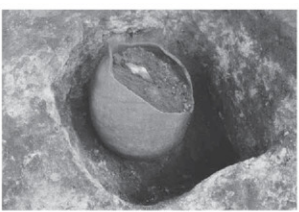
H－32号住居跡全景（南から）

H－33・34号住居跡全景（西から）

H－33号住居跡竈全景（西から）

H－33号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

H－35号住居跡全景（西から）



H－35号住居跡 P3遺物出土状況（南から）

T－1号竪穴状遺構全景（東から）

T－2号竪穴状遺構全景（西から）

T－３号竪穴状遺構全景（北から）

W－１号溝跡Ａ区全景（東から）

W－１号溝跡Ｂ区全景（西から）

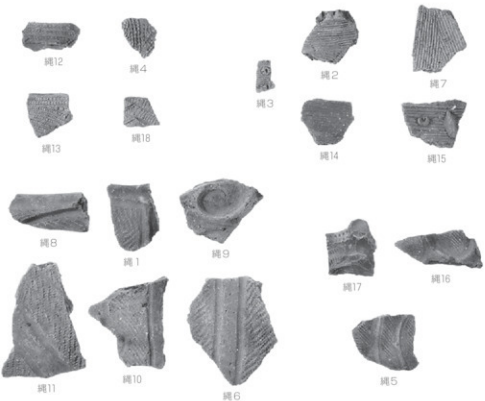
W－１号溝跡Ｂ区全景（南から）

W－２号溝跡全景（南から）

W－４号溝跡全景（西から）

W－５号溝跡全景（南東から）

W－６号溝跡全景（南から）


縄12
縄4
縄3
縄2
縄7
縄13
縄18
縄14
縄15
縄8
縄1
縄9
縄17
縄16
縄11
縄10
縄6
縄5

1
2
3
4
5
6

7

9

10

11

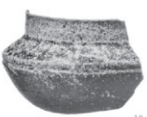
12

8

13

14

15

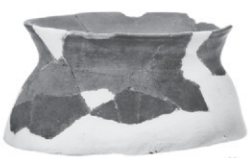

16

17

18

19

22


20

21

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

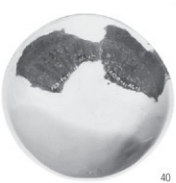
37

38

39

40

42


40

43

44

48

49

47

46

45

52

50

51

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

70

69

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

97

96

99

98

100

101

石3

石6

石10

石7

石14

石9

石4

石5

石11

石2

石12

石8

石1

石13

石15

鉄1

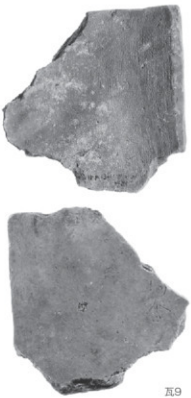
鉄3

鉄2

鉄4

Л1
Л3
Л2
Л5
Л7
Л4
Л6

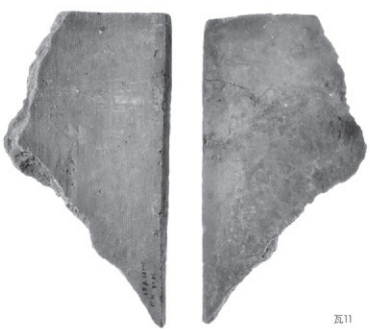
Pl.8



Pl.9

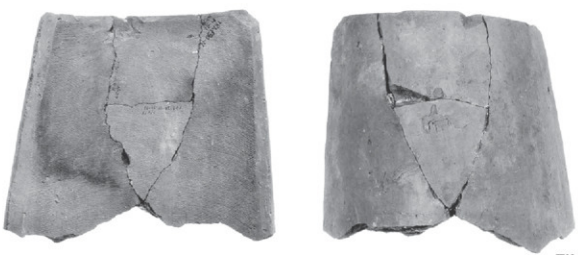
Pl.10

Pl.14



Pl.11

瓦12



瓦13

抄　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（11）
書名	元総社蒼海遺跡群（11）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	髙橋　亨・神宮　聡
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2007年3月9日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群（11）	前橋市元総社町字小見1710他	10201	18A130-11	36°23'22"	139°01'50"	20060822～20061207	約1,130㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（11）	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡７軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡28軒 竪穴状遺構３軒 溝跡２条	土師器、須恵器、瓦　他	
		中世	溝跡５条		

元総社蒼海遺跡群（11）

2007年3月5日　印　刷
2007年3月9日　発　行
編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印　刷　日本特急印刷株式会社
前橋市下小出町二丁目9-25
TEL 027-233-2002